

神戸市民の就業

－平成 29 年就業構造基本調査結果－

結果の概要

1 就業状態

- ・神戸市の平成29年10月1日現在の15歳以上人口134万9,500人のうち、有業者は76万200人、無業者は58万9,400人となっている。平成24年10月1日現在で実施された平成24年就業構造基本調査（以下「前回調査」という。）と比べ有業者は4万1,000人増加、無業者は3万6,800人減少し、有業率は2.8ポイント上昇した。

2 有業者

- ・男女別にみると、有業率は男性が66.8%、女性が47.0%となっており、前回調査と比較すると、男性は1.6ポイント、女性は3.8ポイント上昇した。
- ・女性の有業率を年齢階級別にみると、前回調査と比べ、M字カーブの形状は緩やかなものとなっている。
- ・産業大分類別にみると、「卸売業、小売業」が最も多く、前回調査と比較すると「医療、福祉」は増加、「建設業」は減少した。
- ・若年層は「宿泊業、飲食サービス業」、高齢層は「サービス業（他に分類されないもの）」が多くなっている。
- ・職業別にみると、「事務従事者」が最も多い。
- ・雇用者（役員を除く）66万7,900人のうち、正規の職員・従業員は40万5,900人、非正規の職員・従業員は26万1,900人となっており、非正規の職員・従業員の割合は、男女とも低下した。
- ・女性は25～34歳以外で非正規の職員・従業員の割合が50%を超えている。
- ・非正規の職員・従業員の割合が最も高いのは「宿泊業、飲食サービス業」となっている。
- ・非正規の職員・従業員として初職に就いた者の割合は、上昇傾向にある。
- ・年間就業日数をみると、「250日未満」の割合が上昇、「250日以上」の割合が低下した。
- ・週間就業時間をみると、「35～42時間」の者が最も多い。
- ・有業者のうち、所得が300万円未満の者が約5割となっており、うち女性では300万円未満の者が7割超となっている。
- ・「派遣社員」、「契約社員」では、所得が「200～299万円」の者が最も多い。

3 無業者

- ・無業者数は、平成14年以降最小となっている。
- ・無業者に占める就業希望者の割合、求職者の割合はいずれも前回調査より低下した。
- ・就業希望理由は「収入を得る必要が生じた」、非求職理由は「出産・育児のため」、非就業希望理由は「高齢のため」が最も多い。

4 就業異動

- ・過去1年以内の転職者、離職者が1年前の有業者に占める割合は、それぞれ5.3%（転職率）、5.5%（離職率）であった。転職率、離職率ともに前回調査より低下した。
- ・過去5年間の転職者を産業別にみると、同一産業内での転職が多い。
- ・前職の離職理由をみると、前回調査と比べ「労働条件が悪かったため」の割合が最も上昇した。

- ・過去5年間の転職者について雇用形態間の異動状況を見ると、前職と同じ雇用形態に転職する者が多い。
- ・正規の職員・従業員から非正規の職員・従業員への異動割合は前回調査より低下した。

5 育児と就業

- ・育児をしている女性の有業者数は25歳以上の全ての年齢階級で増加した。
- ・過去5年間に「出産・育児のため」に前職を離職した者は3,800人減少した。
- ・育児をしている雇用者の1日あたりの家事・育児時間は、正規の職員・従業員のうち、男性は「1時間未満」、女性は「4～6時間」の割合が最も高い。

6 介護と就業

- ・介護をしている女性の有業者数は「40～44歳」、「50～54歳」を除く全ての年齢階級で増加した。
- ・過去5年間に「介護・看護のため」に前職を離職した者は2,300人増加した。
- ・介護をしている雇用者の介護日数は、正規の職員・従業員のうち、男性は「月に3日以内」、女性は「週に6日以上」の割合が最も高い。

7 就業調整

- ・就業調整をしている者の8割強が所得50～149万円となっている。
- ・就業調整をしている者は、男性は「20～24歳」、女性は「45～49歳」の割合が最も高い。

8 起業

- ・起業者の8割が男性、2割が女性となっている。

1. 就業状態

有業率は2.8ポイント上昇

神戸市の平成29年10月1日現在の15歳以上人口134万9,500人のうち、有業者は76万200人となっている。前回調査と比べ、4万1,000人（増加率5.7%）増加した。一方、無業者は58万9,400人で、前回調査と比べ、3万6,800人（減少率5.9%）減少した。

就業状態別にみると、有業者のうち「仕事が主な者」は60万4,000人で、前回調査と比べ、2万2,200人（増加率3.8%）増加した。無業者は「家事をしている者」、「通学している者」、「その他」に分けられるが、増加したのは「通学している者」で、前回調査と比べ3,400人（増加率4.0%）増加し、8万7,800人となった。

15歳以上人口に占める有業者の割合（有業率）は56.3%で、前回調査の53.5%と比べ2.8ポイント上昇した。一方、無業者の割合は43.7%で、前回調査と比べ2.8ポイント低下した。

表1 男女、就業状態別 15歳以上人口（平成24年、29年）

（単位：千人、％、ポイント）

| 就業状態 | 平成24年 | | 29年 | | | |
|-------------|---------|-------|----------------|-------|--------|--------|
| | 数 | 構成比 | 数 | 構成比 | 増減数 | 増減率 |
| 総 数 | | | | | | |
| 総 数 | 1,345.4 | 100.0 | 1,349.5 | 100.0 | 4.1 | 0.3 |
| 有 業 者 | 719.2 | 53.5 | 760.2 | 56.3 | 41.0 | 5.7 |
| 仕事 が 主 な 者 | 581.8 | 43.2 | 604.0 | 44.8 | 22.2 | 3.8 |
| 仕事 は 従 な 者 | 136.7 | 10.2 | 156.1 | 11.6 | 19.4 | 14.2 |
| 家事 が 主 な 者 | 108.2 | 8.0 | 116.5 | 8.6 | 8.3 | 7.7 |
| 通学 が 主 な 者 | 20.7 | 1.5 | 30.1 | 2.2 | 9.4 | 45.4 |
| 家事・通学以外が主な者 | 7.8 | 0.6 | 9.5 | 0.7 | 1.7 | 21.8 |
| 無 業 者 | 626.2 | 46.5 | 589.4 | 43.7 | △ 36.8 | △ 5.9 |
| 家事をしている者 | 297.8 | 22.1 | 283.3 | 21.0 | △ 14.5 | △ 4.9 |
| 通学している者 | 84.4 | 6.3 | 87.8 | 6.5 | 3.4 | 4.0 |
| そ の 他 | 243.4 | 18.1 | 218.1 | 16.2 | △ 25.3 | △ 10.4 |
| 男 | | | | | | |
| 総 数 | 627.7 | 100.0 | 632.8 | 100.0 | 5.1 | 0.8 |
| 有 業 者 | 409.3 | 65.2 | 423.0 | 66.8 | 13.7 | 3.3 |
| 仕事 が 主 な 者 | 389.9 | 62.1 | 398.9 | 63.0 | 9.0 | 2.3 |
| 仕事 は 従 な 者 | 19.1 | 3.0 | 24.1 | 3.8 | 5.0 | 26.2 |
| 家事 が 主 な 者 | 4.4 | 0.7 | 2.8 | 0.4 | △ 1.6 | △ 36.4 |
| 通学 が 主 な 者 | 9.6 | 1.5 | 15.6 | 2.5 | 6.0 | 62.5 |
| 家事・通学以外が主な者 | 5.1 | 0.8 | 5.6 | 0.9 | 0.5 | 9.8 |
| 無 業 者 | 218.4 | 34.8 | 209.8 | 33.2 | △ 8.6 | △ 3.9 |
| 家事をしている者 | 19.9 | 3.2 | 28.4 | 4.5 | 8.5 | 42.7 |
| 通学している者 | 42.9 | 6.8 | 44.6 | 7.0 | 1.7 | 4.0 |
| そ の 他 | 155.2 | 24.7 | 136.8 | 21.6 | △ 18.4 | △ 11.9 |
| 女 | | | | | | |
| 総 数 | 717.7 | 100.0 | 716.8 | 100.0 | △ 0.9 | △ 0.1 |
| 有 業 者 | 309.9 | 43.2 | 337.2 | 47.0 | 27.3 | 8.8 |
| 仕事 が 主 な 者 | 191.9 | 26.7 | 205.1 | 28.6 | 13.2 | 6.9 |
| 仕事 は 従 な 者 | 117.6 | 16.4 | 132.1 | 18.4 | 14.5 | 12.3 |
| 家事 が 主 な 者 | 103.8 | 14.5 | 113.7 | 15.9 | 9.9 | 9.5 |
| 通学 が 主 な 者 | 11.2 | 1.6 | 14.5 | 2.0 | 3.3 | 29.5 |
| 家事・通学以外が主な者 | 2.7 | 0.4 | 4.0 | 0.6 | 1.3 | 48.1 |
| 無 業 者 | 407.8 | 56.8 | 379.6 | 53.0 | △ 28.2 | △ 6.9 |
| 家事をしている者 | 277.9 | 38.7 | 254.9 | 35.6 | △ 23.0 | △ 8.3 |
| 通学している者 | 41.6 | 5.8 | 43.2 | 6.0 | 1.6 | 3.8 |
| そ の 他 | 88.1 | 12.3 | 81.3 | 11.3 | △ 6.8 | △ 7.7 |

2. 有業者

(1) 男女別

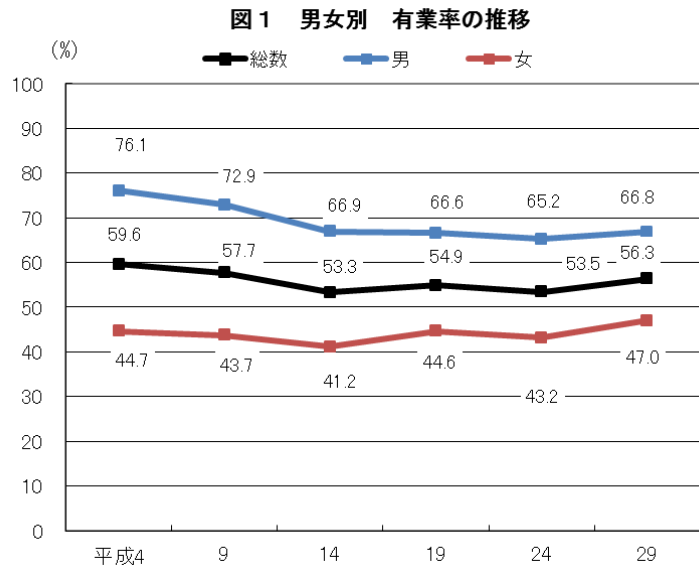
有業率は、男性が1.6ポイント、女性が3.8ポイント上昇

有業者76万200人のうち、男性は42万3,000人、女性は33万7,200人となっている。

前回調査と比べ、男性は1万3,700人(増加率3.3%)増加し、女性は2万7,300人(増加率8.8%)増加した。

有業率をみると、男性は66.8%、女性は47.0%で、前回調査と比べ、男性は1.6ポイント、女性は3.8ポイント上昇した。

平成4年以降の有業率の推移を男女別にみると、男性は平成24年までは緩やかな低下傾向にあるが、平成29年は上昇した。一方、女性は上昇と低下を繰り返しており、平成29年は上昇した。男女間の有業率の差は前回調査の22.0ポイントより縮小し、19.8ポイントとなった。



(2) 年齢(5歳階級)別

M字カーブの形状は緩やかなものに変化

男性の有業率を年齢階級別にみると、男性は30歳から59歳までの各年齢階級で90%を超える有業率となっており、「60～64歳」(有業率77.4%)から低下を始めている。

前回調査と比較すると、「30～34歳」、「45～49歳」を除く全ての年齢階級において、有業率は上昇している。有業率が最も上昇したのは「70～74歳」の11.5ポイント増、次いで「55～59歳」、「60～64歳」で8ポイント以上増加しており、中高年齢層が高い伸びとなった。

表2 年齢(5歳階級), 男女別 有業率(平成24年, 29年)
(単位: %, ポイント)

| 年齢階級 | 男 | | | 女 | | |
|--------|-------|------|--------|-------|------|--------|
| | 平成24年 | 29年 | 増減ポイント | 平成24年 | 29年 | 増減ポイント |
| 総数 | 65.2 | 66.8 | 1.6 | 43.2 | 47.0 | 3.8 |
| 15～19歳 | 16.0 | 17.3 | 1.3 | 19.5 | 12.3 | △ 7.2 |
| 20～24歳 | 63.2 | 66.1 | 2.9 | 57.7 | 67.7 | 10.0 |
| 25～29歳 | 82.9 | 84.6 | 1.7 | 69.7 | 77.7 | 8.0 |
| 30～34歳 | 92.7 | 91.7 | △ 1.0 | 64.9 | 71.7 | 6.8 |
| 35～39歳 | 88.9 | 90.4 | 1.5 | 54.2 | 71.0 | 16.8 |
| 40～44歳 | 91.9 | 92.1 | 0.2 | 70.6 | 68.8 | △ 1.8 |
| 45～49歳 | 95.1 | 91.9 | △ 3.2 | 62.9 | 78.6 | 15.7 |
| 50～54歳 | 88.8 | 91.8 | 3.0 | 67.1 | 74.9 | 7.8 |
| 55～59歳 | 85.1 | 94.0 | 8.9 | 55.8 | 63.8 | 8.0 |
| 60～64歳 | 69.3 | 77.4 | 8.1 | 43.1 | 47.8 | 4.7 |
| 65～69歳 | 46.0 | 48.5 | 2.5 | 23.5 | 27.2 | 3.7 |
| 70～74歳 | 24.2 | 35.7 | 11.5 | 14.8 | 13.8 | △ 1.0 |
| 75歳以上 | 9.2 | 12.2 | 3.0 | 3.2 | 2.8 | △ 0.4 |

女性の有業率を年齢階級別にみると、「40～44歳」(同68.8%)を底とした緩やかなM字カーブとなっており、前後の25～39歳、45～54歳では70%を超えている。

前回調査と比較すると、4階級で減少したが、3階級で10ポイント以上上昇した。M字カーブの底となった年齢階級は、前回調査の「35～39歳」から「40～44歳」へと移動し、M字カーブの形状も緩やかなものとなった。

図2 男 年齢(5歳階級)別 有業率の推移(平成24年, 29年)

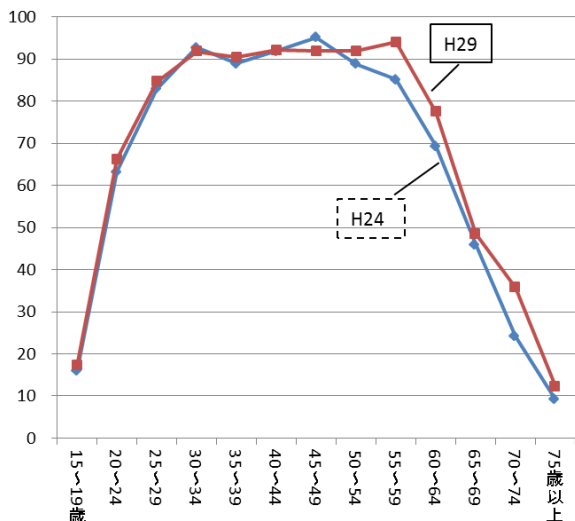
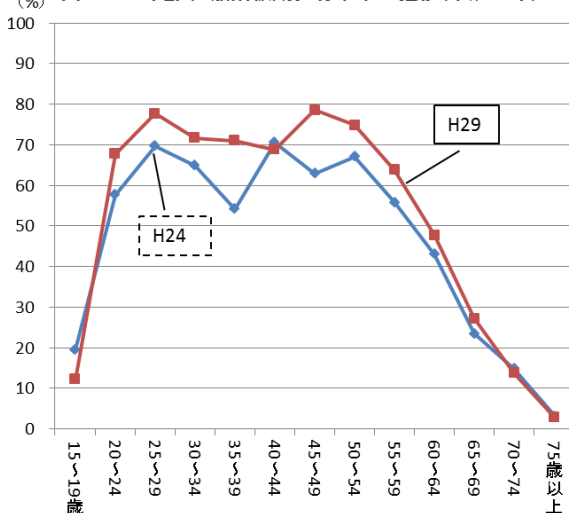


図3 女 年齢(5歳階級)別 有業率の推移(平成24年, 29年)



(3) 従業上の地位別

雇用者の割合が上昇

有業者 76 万 200 人について従業上の地位別にみると、自営業主が 4 万 8,900 人（構成比 6.4%）、家族従業者が 6,400 人（同 0.8%）、会社などの役員が 3 万 6,600 人（同 4.8%）、雇用者（役員を除く）が 66 万 7,900 人（同 87.9%）となっている。

平成 14 年以降の従業上の地位別構成比の推移をみると、自営業主、会社などの役員の割合は低下を続けている。一方、会社などの役員を除く雇用者の割合は上昇を続けている。

図4 従業上の地位別 有業者割合の推移(平成14年～29年)

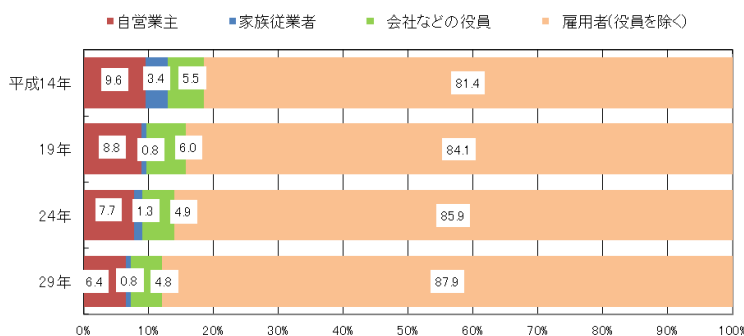


表 3 従業上の地位, 男女別 有業者数 (平成14～29年)

| 従業上の地位 | 総数 | | | | 男 | | | | 女 | | | |
|------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|
| | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 |
| 総数 | 700.2 | 730.6 | 719.2 | 760.2 | 414.1 | 415.1 | 409.3 | 423.0 | 286.1 | 315.5 | 309.9 | 337.2 |
| 自営業主 | 67.1 | 64.5 | 55.6 | 48.9 | 47.8 | 48.6 | 42.4 | 36.3 | 19.3 | 15.9 | 13.2 | 12.7 |
| 家族従業者 | 23.8 | 6.1 | 9.4 | 6.4 | 5.9 | 0.9 | 1.8 | 0.8 | 17.9 | 5.2 | 7.6 | 5.6 |
| 雇用者 | 609.0 | 658.3 | 652.7 | 704.4 | 360.1 | 364.7 | 363.9 | 385.8 | 248.9 | 293.6 | 288.8 | 318.6 |
| 会社などの役員 | 38.7 | 44.2 | 34.9 | 36.6 | 30.6 | 33.9 | 26.6 | 27.4 | 8.1 | 10.3 | 8.3 | 9.2 |
| 雇用者(役員を除く) | 570.3 | 614.1 | 617.8 | 667.9 | 329.5 | 330.9 | 337.3 | 358.4 | 240.8 | 283.2 | 280.5 | 309.5 |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 自営業主 | 9.6 | 8.8 | 7.7 | 6.4 | 11.5 | 11.7 | 10.4 | 8.6 | 6.7 | 5.0 | 4.3 | 3.8 |
| 家族従業者 | 3.4 | 0.8 | 1.3 | 0.8 | 1.4 | 0.2 | 0.4 | 0.2 | 6.3 | 1.6 | 2.5 | 1.7 |
| 雇用者 | 87.0 | 90.1 | 90.8 | 92.7 | 87.0 | 87.9 | 88.9 | 91.2 | 87.0 | 93.1 | 93.2 | 94.5 |
| 会社などの役員 | 5.5 | 6.0 | 4.9 | 4.8 | 7.4 | 8.2 | 6.5 | 6.5 | 2.8 | 3.3 | 2.7 | 2.7 |
| 雇用者(役員を除く) | 81.4 | 84.1 | 85.9 | 87.9 | 79.6 | 79.7 | 82.4 | 84.7 | 84.2 | 89.8 | 90.5 | 91.8 |

(4)産業別

表4 産業大分類別 有業者数(平成29年)

(単位:千人,%)

①概況

「卸売業,小売業」が11万8,800人で最も多い

有業者76万200人を就いている職業の産業大分類別にみる

と,最も多いのは「卸売業,小売業」の11万8,800人(構成比15.6%),次いで「製造業」の10万8,200人(同14.2%),「医療,福祉」の10万6,100人(同14.0%)となっている。

全国の産業大分類別構成比と比較すると,「医療,福祉」は全国(同12.3%)と比べて1.6ポイント,「運輸業,郵便業」(同6.5%)は全国(同5.2%)と比べて1.3ポイント高くなっている。一方,「建設業」(同4.8%)は全国(同7.4%)と比べて2.6ポイント,「農業,林業」(同0.7%)は全国(同3.1%)と比べ2.4ポイント低くなっている。

「医療,福祉」は増加,「建設業」は減少

主な産業の有業者について前回調査と比較すると,最も増加したのは「医療,福祉」の2万4,100人(増加率29.4%),次いで「サービス業(他に分類されないもの)」の1万1,600人(同25.0%)となっている。一方,最も減少したのは,「建設業」の1万3,400人(減少率26.8%),次いで「宿泊業,飲食サービス業」の5,300人(同9.9%)となっている。

| 産業大分類 | 神戸市 | | (参考)全国 | 構成比(神戸市-全国) |
|-------------------|-------|-------|--------|-------------|
| | 実数 | 構成比 | 構成比 | |
| 総数 1) | 760.2 | 100.0 | 100.0 | — |
| 農業,林業 | 5.0 | 0.7 | 3.1 | △ 2.4 |
| 漁業 | — | — | 0.2 | △ 0.2 |
| 鉱業,採石業,砂利採取業 | — | — | 0.0 | △ 0.0 |
| 建設業 | 36.6 | 4.8 | 7.4 | △ 2.6 |
| 製造業 | 108.2 | 14.2 | 15.9 | △ 1.7 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 3.1 | 0.4 | 0.6 | △ 0.2 |
| 情報通信業 | 20.3 | 2.7 | 3.4 | △ 0.7 |
| 運輸業,郵便業 | 49.1 | 6.5 | 5.2 | 1.3 |
| 卸売業,小売業 | 118.8 | 15.6 | 15.3 | 0.3 |
| 金融業,保険業 | 19.5 | 2.6 | 2.5 | 0.1 |
| 不動産業,物品賃貸業 | 21.6 | 2.8 | 2.2 | 0.7 |
| 学術研究,専門・技術サービス業 | 34.8 | 4.6 | 3.7 | 0.9 |
| 宿泊業,飲食サービス業 | 48.4 | 6.4 | 5.6 | 0.7 |
| 生活関連サービス業,娯楽業 | 27.4 | 3.6 | 3.6 | 0.0 |
| 教育,学習支援業 | 43.0 | 5.7 | 4.8 | 0.8 |
| 医療,福祉 | 106.1 | 14.0 | 12.3 | 1.6 |
| 複合サービス事業 | 3.0 | 0.4 | 0.8 | △ 0.4 |
| サービス業(他に分類されないもの) | 58.0 | 7.6 | 6.7 | 0.9 |
| 公務 | 29.6 | 3.9 | 3.5 | 0.3 |

1) 分類不能の産業を含む

表5 男女,主な産業別 有業者数(平成24年,29年)

(単位:千人,%,ポイント)

| 産業大分類 | 平成24年 | | 29年 | | | |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 増減数 | 増減率 |
| 総数 1) | 719.2 | 100.0 | 760.2 | 100.0 | 41.0 | 5.7 |
| 建設業 | 50 | 7.0 | 36.6 | 4.8 | △ 13.4 | △ 26.8 |
| 製造業 | 108.6 | 15.1 | 108.2 | 14.2 | △ 0.4 | △ 0.4 |
| 運輸業,郵便業 | 51.1 | 7.1 | 49.1 | 6.5 | △ 2.0 | △ 3.9 |
| 卸売業,小売業 | 116.5 | 16.2 | 118.8 | 15.6 | 2.3 | 2.0 |
| 学術研究,専門・技術サービス業 | 28.7 | 4.0 | 34.8 | 4.6 | 6.1 | 21.3 |
| 宿泊業,飲食サービス業 | 53.7 | 7.5 | 48.4 | 6.4 | △ 5.3 | △ 9.9 |
| 生活関連サービス業,娯楽業 | 29.2 | 4.1 | 27.4 | 3.6 | △ 1.8 | △ 6.2 |
| 教育,学習支援業 | 37.3 | 5.2 | 43.0 | 5.7 | 5.7 | 15.3 |
| 医療,福祉 | 82 | 11.4 | 106.1 | 14.0 | 24.1 | 29.4 |
| サービス業(他に分類されないもの) | 46.4 | 6.5 | 58.0 | 7.6 | 11.6 | 25.0 |
| 男 1) | 409.3 | 100.0 | 423.0 | 100.0 | 13.7 | 3.3 |
| 建設業 | 42.2 | 10.3 | 30.1 | 7.1 | △ 12.1 | △ 28.7 |
| 製造業 | 79.1 | 19.3 | 75.2 | 17.8 | △ 3.9 | △ 4.9 |
| 運輸業,郵便業 | 39 | 9.5 | 40.7 | 9.6 | 1.7 | 4.4 |
| 卸売業,小売業 | 61.4 | 15.0 | 59.5 | 14.1 | △ 1.9 | △ 3.1 |
| 学術研究,専門・技術サービス業 | 18.1 | 4.4 | 23.0 | 5.4 | 4.9 | 27.1 |
| 宿泊業,飲食サービス業 | 21.2 | 5.2 | 21.7 | 5.1 | 0.5 | 2.4 |
| 生活関連サービス業,娯楽業 | 13.3 | 3.2 | 11.9 | 2.8 | △ 1.4 | △ 10.5 |
| 教育,学習支援業 | 15.7 | 3.8 | 19.3 | 4.6 | 3.6 | 22.9 |
| 医療,福祉 | 17.4 | 4.3 | 27.2 | 6.4 | 9.8 | 56.3 |
| サービス業(他に分類されないもの) | 29 | 7.1 | 34.2 | 8.1 | 5.2 | 17.9 |
| 女 1) | 309.9 | 100.0 | 337.2 | 100.0 | 27.3 | 8.8 |
| 建設業 | 7.8 | 2.5 | 6.5 | 1.9 | △ 1.3 | △ 16.7 |
| 製造業 | 29.5 | 9.5 | 33.0 | 9.8 | 3.5 | 11.9 |
| 運輸業,郵便業 | 12.1 | 3.9 | 8.4 | 2.5 | △ 3.7 | △ 30.6 |
| 卸売業,小売業 | 55.1 | 17.8 | 59.3 | 17.6 | 4.2 | 7.6 |
| 学術研究,専門・技術サービス業 | 10.7 | 3.5 | 11.8 | 3.5 | 1.1 | 10.3 |
| 宿泊業,飲食サービス業 | 32.5 | 10.5 | 26.6 | 7.9 | △ 5.9 | △ 18.2 |
| 生活関連サービス業,娯楽業 | 15.9 | 5.1 | 15.4 | 4.6 | △ 0.5 | △ 3.1 |
| 教育,学習支援業 | 21.6 | 7.0 | 23.7 | 7.0 | 2.1 | 9.7 |
| 医療,福祉 | 64.5 | 20.8 | 79.0 | 23.4 | 14.5 | 22.5 |
| サービス業(他に分類されないもの) | 17.4 | 5.6 | 23.8 | 7.1 | 6.4 | 36.8 |

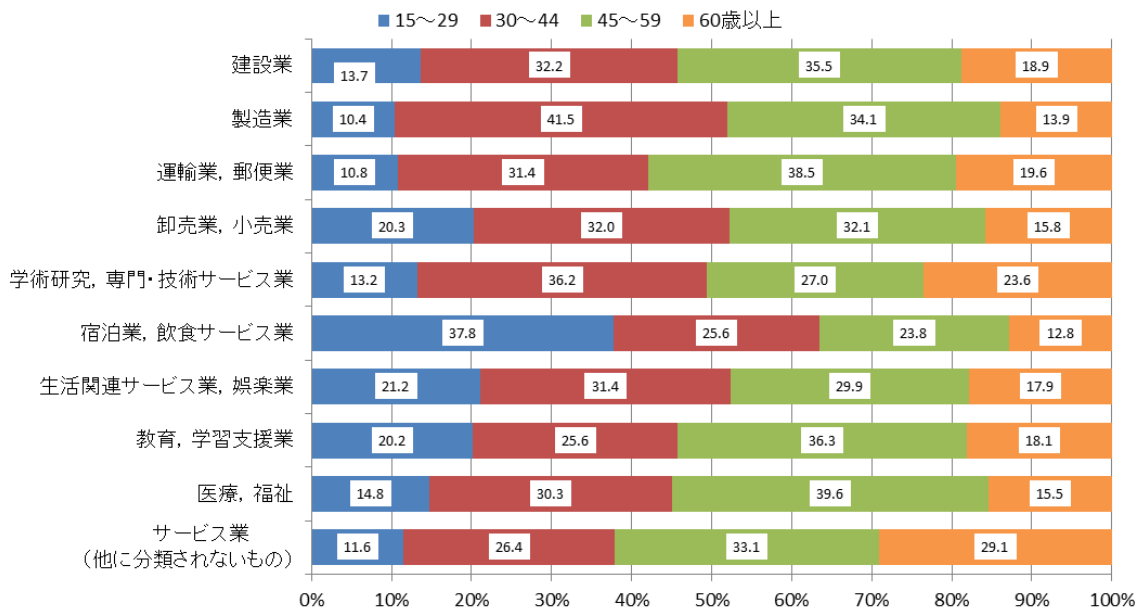
1) 「農業,林業」「漁業」「鉱業,採石業,砂利採取業」「電気,ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「金融業,保険業」「不動産業,物品賃貸業」「複合サービス事業」「公務(ほかに分類されるものを除く)」「分類不明の産業」を含む

②年齢階級別

若年層は「宿泊業, 飲食サービス業」, 高齢層は「サービス業(他に分類されないもの)」が多い

主な産業の有業者について, 年齢階級別の構成比をみると, 15~29歳の若年層で最も高いのは, 「宿泊業, 飲食サービス業」(産業別の有業者に占める割合 37.8%) となっている。また, 60歳以上の高齢層で最も高いのは, 「サービス業(他に分類されないもの)」(産業別の有業者に占める割合 29.1%) となっている。

図5 主な産業別 有業者の年齢階級割合(平成29年)

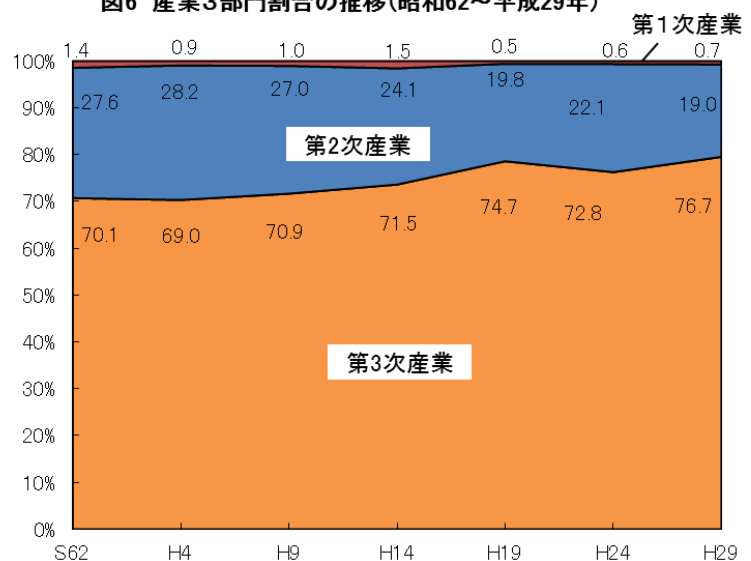


③産業3部門別

第3次産業有業者の割合が上昇

有業者について産業3部門別にみると, 第1次産業が0.7%, 第2次産業が19.0%, 第3次産業が76.7%となっている。昭和62年以降の推移をみると, 第1次産業の割合は1%前後で推移し, 平成19年以降は1%を下回っている。平成9年以降, 平成24年(第2次産業の割合が上昇, 第3次産業の割合が低下)を除いて, 第2次産業の割合は低下, 第3次産業の割合が上昇を続けている。

図6 産業3部門割合の推移(昭和62~平成29年)



(5)職業別

①概況

「事務従事者」が23.7%で最も多い

有業者76万200人を職業大分類別にみると、「事務従事者」が18万200人(構成比23.7%)で最も多く、次いで「専門的・技術的職業従事者」が15万2,100人(同20.0%)、「販売従事者」が9万9,900人(同13.1%)となっている。

男女別にみると、男性は「専門的・技術的職業従事者」が7万7,800人(同18.4%)と最も多く、次いで「事務従事者」が7万4,800人(同17.7%)、「販売従事者」が6万人(同14.2%)となっている。一方、女性は「事務従事者」が10万5,400人(同31.3%)と最も多く、次いで「専門的・技術的職業従事者」が7万4,300人(22.0%)、「サービス職業従事者」が5万5,700人(同16.5%)となっている。

前回調査と比較すると、「専門的・技術的職業従事者」が2万5,500人増(増加率20.1%)、「事務従事者」が2万5,000人増(同16.1%)となっている。一方、「運搬・清掃・包装等従事者」が9,000人減(減少率16.7%)「建設・採掘従事者」が6,200人減(同24.1%)となっている。

表6 男女、職業大分類別 有業者数(平成24年、29年)

(単位:千人,%,ポイント)

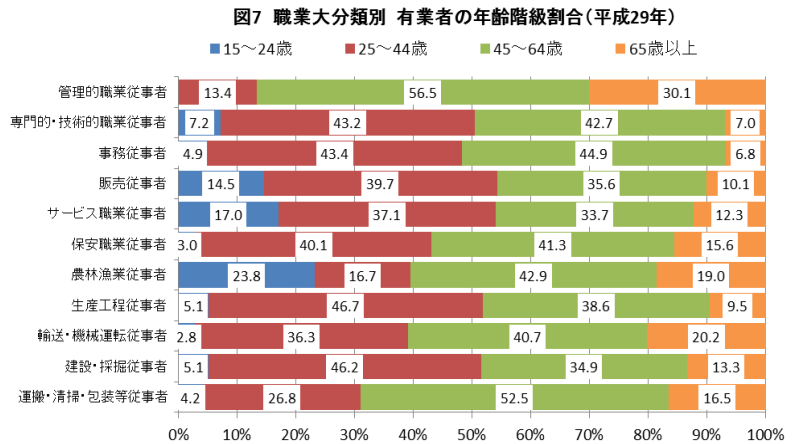
| 職業大分類 | 平成24年 | | 29年 | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 人数 | 構成比 | 人数 | 構成比 | 増減数 | 増減率 |
| 総数 1) | 719.2 | 100.0 | 760.2 | 100.0 | 41.0 | 5.7 |
| 管理的職業従事者 | 16.0 | 2.2 | 20.9 | 2.7 | 4.9 | 30.6 |
| 専門的・技術的職業従事者 | 126.6 | 17.6 | 152.1 | 20.0 | 25.5 | 20.1 |
| 事務従事者 | 155.2 | 21.6 | 180.2 | 23.7 | 25.0 | 16.1 |
| 販売従事者 | 101.8 | 14.2 | 99.9 | 13.1 | △ 1.9 | △ 1.9 |
| サービス職業従事者 | 91.6 | 12.7 | 93.0 | 12.2 | 1.4 | 1.5 |
| 保安職業従事者 | 13.1 | 1.8 | 16.7 | 2.2 | 3.6 | 27.5 |
| 農林漁業従事者 | 4.6 | 0.6 | 4.2 | 0.6 | △ 0.4 | △ 8.7 |
| 生産工程従事者 | 78.7 | 10.9 | 79.7 | 10.5 | 1.0 | 1.3 |
| 輸送・機械運転従事者 | 23.8 | 3.3 | 24.8 | 3.3 | 1.0 | 4.2 |
| 建設・採掘従事者 | 25.7 | 3.6 | 19.5 | 2.6 | △ 6.2 | △ 24.1 |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 53.8 | 7.5 | 44.8 | 5.9 | △ 9.0 | △ 16.7 |
| 男 1) | 409.3 | 100.0 | 423.0 | 100.0 | 13.7 | 3.3 |
| 管理的職業従事者 | 12.4 | 3.0 | 17.6 | 4.2 | 5.2 | 41.9 |
| 専門的・技術的職業従事者 | 67.4 | 16.5 | 77.8 | 18.4 | 10.4 | 15.4 |
| 事務従事者 | 68.1 | 16.6 | 74.8 | 17.7 | 6.7 | 9.8 |
| 販売従事者 | 63.0 | 15.4 | 60.0 | 14.2 | △ 3.0 | △ 4.8 |
| サービス職業従事者 | 32.7 | 8.0 | 37.3 | 8.8 | 4.6 | 14.1 |
| 保安職業従事者 | 12.8 | 3.1 | 16.3 | 3.9 | 3.5 | 27.3 |
| 農林漁業従事者 | 3.6 | 0.9 | 2.0 | 0.5 | △ 1.6 | △ 44.4 |
| 生産工程従事者 | 56.7 | 13.9 | 54.6 | 12.9 | △ 2.1 | △ 3.7 |
| 輸送・機械運転従事者 | 23.2 | 5.7 | 24.6 | 5.8 | 1.4 | 6.0 |
| 建設・採掘従事者 | 25.5 | 6.2 | 19.0 | 4.5 | △ 6.5 | △ 25.5 |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 27.9 | 6.8 | 25.6 | 6.1 | △ 2.3 | △ 8.2 |
| 女 1) | 309.9 | 100.0 | 337.2 | 100.0 | 27.3 | 8.8 |
| 管理的職業従事者 | 3.6 | 1.2 | 3.4 | 1.0 | △ 0.2 | △ 5.6 |
| 専門的・技術的職業従事者 | 59.2 | 19.1 | 74.3 | 22.0 | 15.1 | 25.5 |
| 事務従事者 | 87.1 | 28.1 | 105.4 | 31.3 | 18.3 | 21.0 |
| 販売従事者 | 38.8 | 12.5 | 39.9 | 11.8 | 1.1 | 2.8 |
| サービス職業従事者 | 58.9 | 19.0 | 55.7 | 16.5 | △ 3.2 | △ 5.4 |
| 保安職業従事者 | 0.4 | 0.1 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 0.0 |
| 農林漁業従事者 | 1.0 | 0.3 | 2.3 | 0.7 | 1.3 | 130.0 |
| 生産工程従事者 | 22.0 | 7.1 | 25.1 | 7.4 | 3.1 | 14.1 |
| 輸送・機械運転従事者 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | △ 0.4 | △ 66.7 |
| 建設・採掘従事者 | 0.2 | 0.1 | 0.5 | 0.1 | 0.3 | 150.0 |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 26.0 | 8.4 | 19.1 | 5.7 | △ 6.9 | △ 26.5 |

1) 分類不能の職業を含む

②年齢階級別

「管理的職業従事者」の3割を65歳以上が占める

職業大分類別に有業者の年齢階級別構成比をみると、「農村漁業従事者」，「サービス職業従事者」は15～24歳が占める割合がそれぞれ23.8%，17.0%と高くなっている。また，「管理的職業従事者」，「輸送・機械運転従事者」は65歳以上が占める割合がそれぞれ30.1%，20.2%と，2割を超えている。



(6)雇用形態

①概況

非正規の職員・従業員の割合が男女とも低下

平成29年の雇用者(役員を除く)66万7,900人を雇用形態別にみると，正規の職員・従業員が40万5,900人(構成比60.8%)，パートが12万500人(同18.0%)，アルバイトが5万8,200人(同8.7%)，労働者派遣事業所の派遣社員が2万2,700人(同3.4%)，契約社員・嘱託が5万2,900人(同7.9%)，その他が7,500人(同1.1%)となっている。非正規の職員・従業員は26万1,900人で，構成比は39.2%となっている。

男女別にみると，男性は76.9%が正規の職員・従業員であるのに対し，女性は42.1%となっている。パートは男性が3.4%であるのに対し，女性は35.0%となっている。アルバイト，派遣社員についても，女性の方が男性よりも構成比が高く，非正規の職員・従業員全体でみると，男性の23.1%に対し，女性は57.9%を占めている。

平成9年以降の非正規の職員・従業員の構成比の推移を男女別にみると，平成24年までは男女ともに上昇を続けていたが，平成29年は低下した。なお，男女間の差は平成9年以降初めて35ポイント以下に縮小した。

また，非正規の職員・従業員の構成比を全国値と比較すると，神戸市の方が男女とも高い水準となっている。

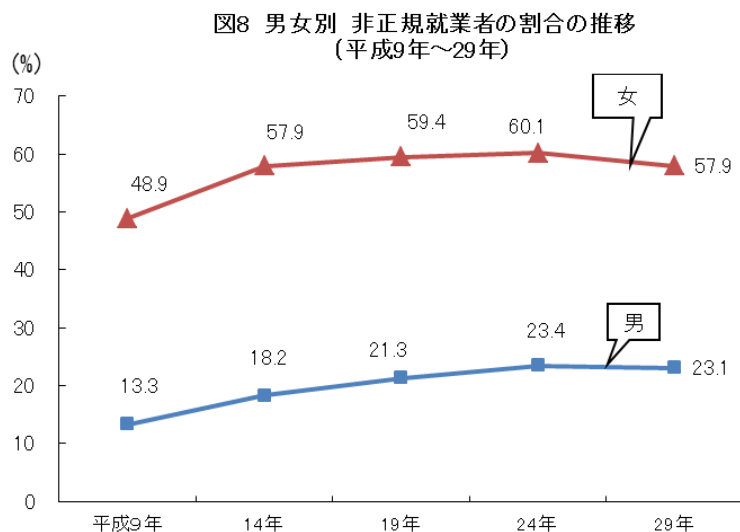


表7 雇用形態, 男女別 雇用者(役員を除く)数(平成14~29年)

| 雇用形態 | 総 数 | | | | 男 | | | | 女 | | | |
|---------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|
| | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 |
| 雇用者(役員を除く) 1) | 570.3 | 614.1 | 617.8 | 667.9 | 329.5 | 330.9 | 337.3 | 358.4 | 240.8 | 283.2 | 280.5 | 309.5 |
| 正規の職員・従業員 | 369.1 | 375.1 | 370.3 | 405.9 | 268.3 | 260.2 | 258.4 | 275.6 | 100.8 | 114.9 | 111.9 | 130.3 |
| 非正規の職員・従業員 | 199.6 | 238.8 | 247.6 | 261.9 | 60.1 | 70.5 | 79.0 | 82.7 | 139.5 | 168.3 | 168.6 | 179.2 |
| パート | 89.7 | 109.9 | 117.5 | 120.5 | 5.6 | 8.4 | 9.4 | 12.3 | 84.0 | 101.5 | 108.1 | 108.2 |
| アルバイト | 58.5 | 54.9 | 58.5 | 58.2 | 29.9 | 27.2 | 29.5 | 28.7 | 28.6 | 27.7 | 29.0 | 29.5 |
| 派遣社員 2) | 11.8 | 22.6 | 15.2 | 22.7 | 2.9 | 8.3 | 6.3 | 7.6 | 8.9 | 14.3 | 9.0 | 15.1 |
| 契約社員・嘱託 3) | 28.9 | 40.1 | 48.3 | 52.9 | 16.4 | 22.4 | 28.8 | 30.7 | 12.6 | 17.7 | 19.5 | 22.2 |
| その他 | 10.7 | 11.4 | 8.0 | 7.5 | 5.4 | 4.2 | 5.0 | 3.4 | 5.3 | 7.1 | 3.1 | 4.2 |
| | | | | | | 実 数 | | | | | | |
| 雇用者(役員を除く) 1) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 正規の職員・従業員 | 64.7 | 61.1 | 59.9 | 60.8 | 81.4 | 78.6 | 76.6 | 76.9 | 41.9 | 40.6 | 39.9 | 42.1 |
| 非正規の職員・従業員 | 35.0 | 38.9 | 40.1 | 39.2 | 18.2 | 21.3 | 23.4 | 23.1 | 57.9 | 59.4 | 60.1 | 57.9 |
| パート | 15.7 | 17.9 | 19.0 | 18.0 | 1.7 | 2.5 | 2.8 | 3.4 | 34.9 | 35.8 | 38.5 | 35.0 |
| アルバイト | 10.3 | 8.9 | 9.5 | 8.7 | 9.1 | 8.2 | 8.7 | 8.0 | 11.9 | 9.8 | 10.3 | 9.5 |
| 派遣社員 2) | 2.1 | 3.7 | 2.5 | 3.4 | 0.9 | 2.5 | 1.9 | 2.1 | 3.7 | 5.0 | 3.2 | 4.9 |
| 契約社員・嘱託 3) | 5.1 | 6.5 | 7.8 | 7.9 | 5.0 | 6.8 | 8.5 | 8.6 | 5.2 | 6.3 | 7.0 | 7.2 |
| その他 | 1.9 | 1.9 | 1.3 | 1.1 | 1.6 | 1.3 | 1.5 | 0.9 | 2.2 | 2.5 | 1.1 | 1.4 |
| | | | | | | 構 成 比 | | | | | | |
| (参考: 全国) | | | | | | | | | | | | |
| 非正規の職員・従業員 | 31.9 | 35.5 | 38.2 | 38.2 | 16.3 | 19.9 | 22.1 | 22.3 | 52.9 | 55.2 | 57.5 | 56.6 |

- 1) 雇用形態不詳を含む
- 2) 労働者派遣事業所の派遣社員
- 3) 平成19, 24, 29年は「契約社員」と「嘱託」の合計

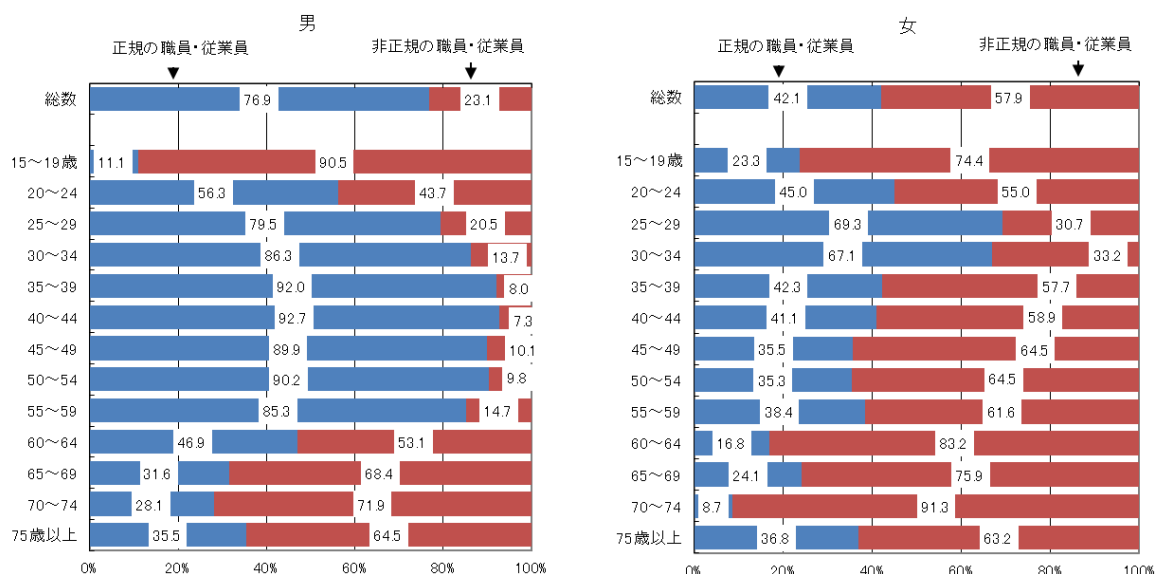
②年齢(5歳階級)別

女性は25~34歳以外で非正規の職員・従業員が50%を超える

雇用者(役員を除く)に占める正規の職員・従業員及び非正規の職員・従業員の割合を年齢階級別にみると、男性では15~19歳及び60歳以上の年齢階級において、非正規の職員・従業員の割合が50%を超えている。30~59歳では正規の職員・従業員の割合が80%を超えており、中でも35歳~54歳では90%を超える高い水準となっている。

一方、女性は25~34歳では正規の職員・従業員の割合が60%を超えているが、その他の年齢階級では非正規の職員・従業員の割合が50%を超えている。

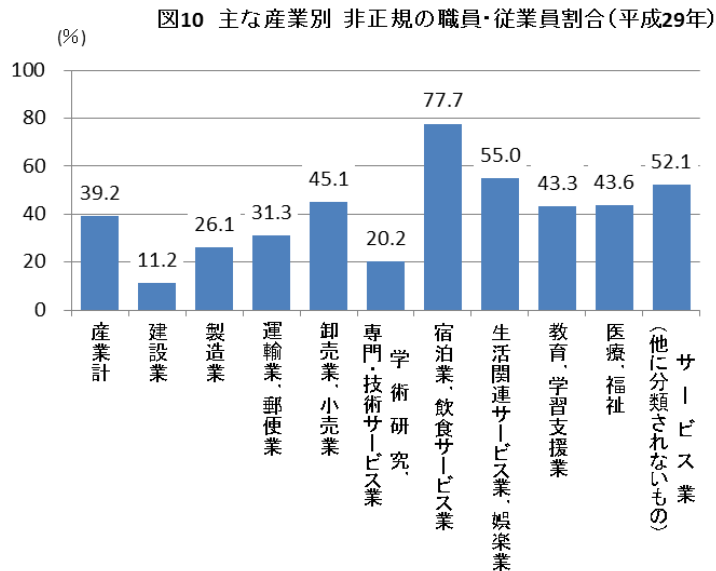
図9 男女, 年齢, 雇用形態別 雇用者(役員を除く)割合(平成29年)



③産業別

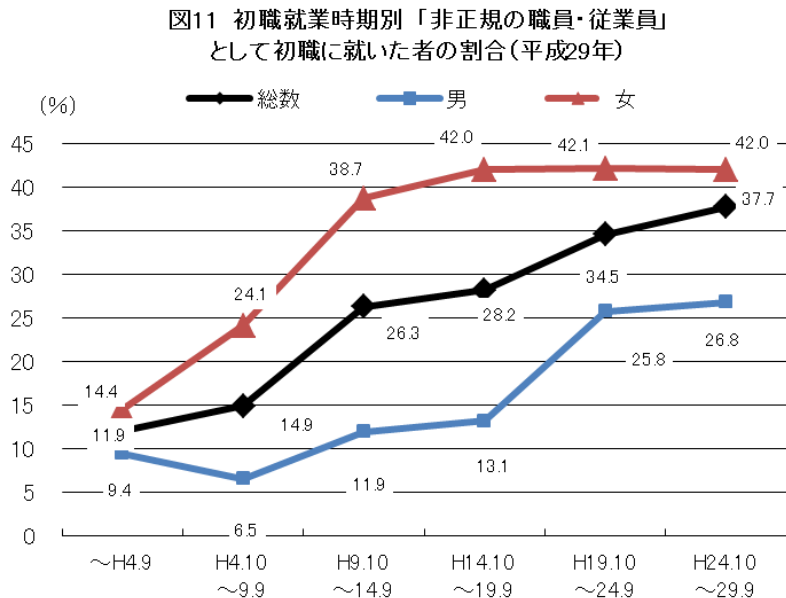
非正規の職員・従業員の割合が最も高いのは「宿泊業，飲食サービス業」

主な産業について雇用者（役員を除く）に占める非正規の職員・従業員の割合をみると，全産業の非正規の職員・従業員の割合 39.2%を超えているのは，「宿泊業，飲食サービス業」（77.7%），「生活関連サービス業，娯楽業」（55.0%），「サービス業（他に分類されないもの）」（52.1%），「卸売業，小売業」（45.1%），「医療，福祉」（43.6%），「教育，学習支援業」（43.3%）となっている。



平成4年10月以降，非正規の職員・従業員として初職に就いた者の割合は上昇傾向

平成4年10月以降に初職に就いた者について，就業時期別に雇用形態をみると，非正規の職員・従業員として初職に就いた者の割合は，年を追うごとに上昇傾向にある。「平成24年10月～29年9月」に非正規の職員・従業員として初職に就いた者の割合は 37.7%となっている。



(7)雇用契約期間

「雇用契約期間の定めがある」者の1回あたりの雇用契約期間は「6か月超1年以下」が最も多い

雇用者（役員を除く）について、雇用契約期間の定めの有無別にみると、「雇用契約期間の定めがない（定年までの雇用を含む）」者は44万人（「雇用者（役員を除く）」に占める割合65.9%）、「雇用契約期間の定めがある」者は14万5,600人（同21.8%）となっている。「雇用契約期間の定めがある」者について、雇用契約期間別にみると、「6か月超1年以下」が6万8,600人（「雇用契約期間の定めがある」者に占める割合47.1%）と最も多く、次いで「1か月以上6か月以下」が3万8,300人（同26.3%）となっている。また、非正規の職員・従業員について、雇用契約期間の定めの有無別にみると、「雇用契約期間の定めがない（定年までの雇用を含む）」ものは7万2,500人（「非正規の職員・従業員」に占める割合27.7%）、「雇用契約期間の定めがある」ものは12万5,200人（同47.8%）となっている。

雇用期間の定めがある非正規の職員・従業員(12万5,200人)について、雇用形態ごとに、1回あたりの雇用契約期間をみると、「1か月以上6か月以下」が最も高い構成比を占めるのは、「労働者派遣事業所の派遣社員(72.2%)」、「アルバイト(42.1%)」となっている。また、「6か月超1年以下」が最も高い構成比を占めるのは、「嘱託(65.6%)」、「その他(65.4%)」、「契約社員(58.6%)」、「パート(54.9%)」となっている。

表8 雇用期間の定めの有無、1回あたりの雇用契約期間、雇用形態別 雇用者(役員を除く)数及び割合(平成29年)

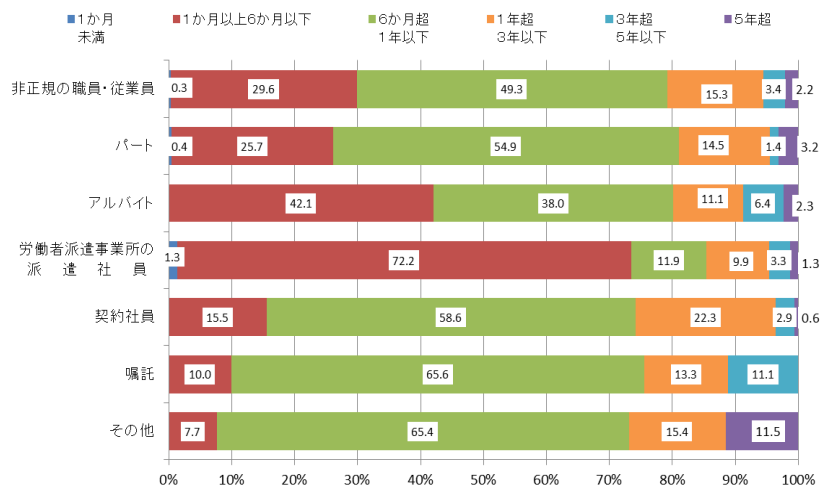
(単位:千人,%)

| 雇用契約期間の定めの有無 1回あたりの雇用契約期間 | 総数 1) | 正規の 職員・ 従業員 | 非正規の 職員・ 従業員 |
|------------------------------|----------|-------------------|--------------------|
| 実 数 | | | |
| 総数 | 667.9 | 405.9 | 261.9 |
| 雇用契約期間の定めがない (定年までの雇用を含む) | 440.0 | 367.5 | 72.5 |
| 雇用契約期間の定めがある | 145.6 | 20.5 | 125.2 |
| 1か月未満 | 0.6 | 0.3 | 0.4 |
| 1か月以上6か月以下 | 38.3 | 1.3 | 37.0 |
| 6か月超1年以下 | 68.6 | 6.8 | 61.7 |
| 1年超3年以下 | 23.4 | 4.2 | 19.2 |
| 3年超5年以下 | 7.1 | 2.9 | 4.2 |
| 5年超 | 7.6 | 5.0 | 2.7 |
| わからない | 81.6 | 17.9 | 63.6 |
| 構 成 比 | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 雇用契約期間の定めがない (定年までの雇用を含む) | 65.9 | 90.5 | 27.7 |
| 雇用契約期間の定めがある | 21.8 | 5.1 | 47.8 |
| | (100.0) | (100.0) | (100.0) |
| 1か月未満 | (0.4) | (1.5) | (0.3) |
| 1か月以上6か月以下 | (26.3) | (6.3) | (29.6) |
| 6か月超1年以下 | (47.1) | (33.2) | (49.3) |
| 1年超3年以下 | (16.1) | (20.5) | (15.3) |
| 3年超5年以下 | (4.9) | (14.1) | (3.4) |
| 5年超 | (5.2) | (24.4) | (2.2) |
| わからない | 12.2 | 4.4 | 24.3 |

1) 会社などの役員を除く

()は「雇用契約期間の定めがある」を100とした場合の割合

図12 雇用形態、1回あたりの雇用契約期間別 非正規の職員・従業員の割合(平成29年)



(8)就業日数, 就業時間

①年間就業日数

「250日未満」の割合が上昇, 「250日以上」の割合が低下

有業者76万200人のうち、年間就業日数が「200～249日」の者が29万200人(構成比38.2%)と最も多く、次いで「250～299日」が21万9,200人(同28.8%), 「200日未満」が18万6,200人(同24.5%)となっている。平成24年と比較すると, 「200～249日」は4.3ポイント上昇し, 「250～299日」は4.4ポイント低下した。

男女別に構成比をみると、年間就業日数が「200日未満」の者は、男性では15.7%, 女性では35.5%となっている。一方, 「250～299日」の者は、男性では35.7%, 女性では20.2%となっている。平成24年と比較すると、男性では「200～249日」が4.3ポイント上昇し, 「250～299日」が3.3ポイント低下した。一方, 女性では「200～249日」が4.4ポイント上昇し, 「250～299日」が5.4ポイント低下した。

表9 男女, 年間就業日数別 有業者数(平成14～29年)

| 年間就業日数 | 実数 | | | | 構成比 | | | | 参考全国 |
|-----------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|
| | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | |
| 総数 | 700.2 | 730.6 | 719.2 | 760.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 200日未満 | 167.5 | 164.6 | 158.7 | 186.2 | 23.9 | 22.5 | 22.1 | 24.5 | 21.4 |
| 200～249日 | 260.1 | 247.7 | 243.4 | 290.2 | 37.1 | 33.9 | 33.8 | 38.2 | 36.7 |
| 250～299日 | 266.7 | 243.0 | 238.8 | 219.2 | 38.1 | 33.3 | 33.2 | 28.8 | 32.4 |
| 300日以上 1) | - | 69.2 | 65.8 | 56.8 | - | 9.5 | 9.1 | 7.5 | 7.9 |
| 男 | 414.1 | 415.1 | 409.3 | 423.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 200日未満 | 67.8 | 57.6 | 54.9 | 66.4 | 16.4 | 13.9 | 13.4 | 15.7 | 14.6 |
| 200～249日 | 158.4 | 135.7 | 139.0 | 161.8 | 38.3 | 32.7 | 34.0 | 38.3 | 36.1 |
| 250～299日 | 184.2 | 166.1 | 159.5 | 151.1 | 44.5 | 40.0 | 39.0 | 35.7 | 37.6 |
| 300日以上 1) | - | 52.4 | 49.1 | 40.5 | - | 12.6 | 12.0 | 9.6 | 10.2 |
| 女 | 286.1 | 315.5 | 309.9 | 337.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 200日未満 | 99.7 | 107.1 | 103.7 | 119.8 | 34.8 | 33.9 | 33.5 | 35.5 | 30.1 |
| 200～249日 | 101.7 | 112.1 | 104.4 | 128.3 | 35.5 | 35.5 | 33.7 | 38.0 | 37.3 |
| 250～299日 | 82.6 | 77.0 | 79.3 | 68.2 | 28.9 | 24.4 | 25.6 | 20.2 | 25.8 |
| 300日以上 1) | - | 16.8 | 16.7 | 16.3 | - | 5.3 | 5.4 | 4.8 | 5.0 |

※平成14年については、神戸市独自集計による
1)平成14年については、「250～299日」を含む

非正規の職員・従業員の5割が「200日未満」の就業

雇用者(役員を含む)67万6,600人の年間就業日数を、雇用形態(正規の職員・従業員, 非正規の職員・従業員)別にみると、雇用者全体では「200～249日」が41.1%と最も高く、次いで「250～299日」が28.7%となっている。正規の職員・従業員も同様の傾向で, 「200～249日」が46.6%と最も高く、次いで「250～299日」が37.5%となっている。一方, 非正規の職員・従業員では, 「200日未満」が50.0%と最も高く、次いで「200～249日」が33.6%となっている。

表10 男女, 雇用形態, 年間就業日数別 雇用者数(平成29年)

| 年間就業日数 | 総数 | 200日未満 | 200～249日 | 250～299日 | 300日以上 |
|--------------|-------|--------|----------|----------|--------|
| (単位:千人, %) | | | | | |
| 実 数 | | | | | |
| 総数 | 676.6 | 159.6 | 277.8 | 194.4 | 44.1 |
| 雇用者 1) | 395.1 | 30.2 | 184.3 | 148.2 | 31.9 |
| うち正規の職員・従業員 | 245.6 | 122.8 | 82.4 | 34.2 | 5.8 |
| うち非正規の職員・従業員 | | | | | |
| 男 | 370.4 | 51.5 | 155.5 | 131.9 | 31.0 |
| 雇用者 1) | 267.4 | 16.6 | 120.6 | 107.0 | 22.7 |
| うち正規の職員・従業員 | 76.0 | 32.2 | 26.2 | 14.5 | 3.2 |
| うち非正規の職員・従業員 | | | | | |
| 女 | 306.3 | 108.1 | 122.4 | 62.5 | 12.9 |
| 雇用者 1) | 127.8 | 13.6 | 63.8 | 41.2 | 9.2 |
| うち正規の職員・従業員 | 169.6 | 90.6 | 56.2 | 19.6 | 2.8 |
| うち非正規の職員・従業員 | | | | | |
| 構 成 比 | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 23.6 | 41.1 | 28.7 | 6.5 |
| 雇用者 1) | 100.0 | 7.6 | 46.6 | 37.5 | 8.1 |
| うち正規の職員・従業員 | 100.0 | 50.0 | 33.6 | 13.9 | 2.4 |
| うち非正規の職員・従業員 | | | | | |
| 男 | 100.0 | 13.9 | 42.0 | 35.6 | 8.4 |
| 雇用者 1) | 100.0 | 6.2 | 45.1 | 40.0 | 8.5 |
| うち正規の職員・従業員 | 100.0 | 42.4 | 34.5 | 19.1 | 4.2 |
| うち非正規の職員・従業員 | | | | | |
| 女 | 100.0 | 35.3 | 40.0 | 20.4 | 4.2 |
| 雇用者 1) | 100.0 | 10.6 | 49.9 | 32.2 | 7.2 |
| うち正規の職員・従業員 | 100.0 | 53.4 | 33.1 | 11.6 | 1.7 |
| うち非正規の職員・従業員 | | | | | |

1) 会社などの役員を含む

②週間就業時間

週間就業時間が「35～42時間」の者が最も多い

年間就業日数200日以上の有業者56万6,200人についてみると、週間就業時間が「35～42時間」の者が17万9,800人（構成比31.8%）と最も多く、次いで「43～48時間」が14万6,300人（同25.8%）、「35時間未満」が8万9,900人（同15.9%）となっている。平成24年と構成比を比較すると、「35時間未満」は2.5ポイント上昇し、「60時間以上」は3.0ポイント低下した。

男女別に構成比をみると、週間就業時間が「35時間未満」の者は、男性では8.8%、女性では27.6%となっている。一方、「60時間以上」の者は、男性では14.9%、女性では3.9%となっている。平成24年と比較すると、男性では「43～48時間」が2.9ポイント上昇し、「60時間以上」が3.3ポイント低下した。一方、女性は「49～59時間」が1.5ポイント上昇し、「60時間以上」が2.2ポイント低下した。

年間就業日数が200日以上の雇用者（役員を含む）51万6,300人について、週間就業時間を雇用形態（正規の職員・従業員、非正規の職員・従業員）別にみると、雇用者全体で最も多いのは「35～42時間」の31.9%、次

いで「43～48時間」の26.6%となっている。正規の職員・従業員では、「43～48時間」が31.4%と最も多く、次いで「35～42時間」の30.5%となっている。一方、非正規の職員・従業員では「35時

表11 週間就業時間別 有業者数（平成14～29年）
（年間就業日200日以上）

（単位：千人，%）

| 週間就業時間 | 実数 | | | | 構成比 | | | | (参考) 全国 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | |
| 総数 | 526.8 | 559.9 | 547.9 | 566.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 35時間未満 | 54.7 | 79.2 | 73.6 | 89.9 | 10.4 | 14.1 | 13.4 | 15.9 | 15.2 |
| 35～42時間 | 148.2 | 160.5 | 174.9 | 179.8 | 28.1 | 28.7 | 31.9 | 31.8 | 31.6 |
| 43～48時間 | 138.7 | 127.4 | 129.5 | 146.3 | 26.3 | 22.8 | 23.6 | 25.8 | 25.6 |
| 49～59時間 | 105.6 | 104.2 | 93.5 | 88.5 | 20.0 | 18.6 | 17.1 | 15.6 | 16.4 |
| 60時間以上 | 78.2 | 86.3 | 75.5 | 61.2 | 14.8 | 15.4 | 13.8 | 10.8 | 10.7 |
| 男 | 342.6 | 354.1 | 347.6 | 353.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 35時間未満 | 11.9 | 21.8 | 18.3 | 31.2 | 3.5 | 6.2 | 5.3 | 8.8 | 8.2 |
| 35～42時間 | 87.5 | 95.5 | 102.8 | 103.2 | 25.5 | 27.0 | 29.6 | 29.2 | 27.5 |
| 43～48時間 | 95.1 | 86.6 | 87.8 | 99.8 | 27.8 | 24.5 | 25.3 | 28.2 | 28.9 |
| 49～59時間 | 84.6 | 76.5 | 75.3 | 66.0 | 24.7 | 21.6 | 21.7 | 18.7 | 20.6 |
| 60時間以上 | 62.2 | 72.3 | 63.1 | 52.7 | 18.2 | 20.4 | 18.2 | 14.9 | 14.3 |
| 女 | 184.3 | 205.9 | 200.3 | 212.8 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 35時間未満 | 42.8 | 57.4 | 55.3 | 58.7 | 23.2 | 27.9 | 27.6 | 27.6 | 26.2 |
| 35～42時間 | 60.7 | 65.0 | 72.1 | 76.7 | 32.9 | 31.6 | 36.0 | 36.0 | 38.1 |
| 43～48時間 | 43.5 | 40.7 | 41.8 | 46.6 | 23.6 | 19.8 | 20.9 | 21.9 | 20.4 |
| 49～59時間 | 20.9 | 27.7 | 18.2 | 22.5 | 11.3 | 13.5 | 9.1 | 10.6 | 9.7 |
| 60時間以上 | 15.9 | 14.0 | 12.3 | 8.4 | 8.6 | 6.8 | 6.1 | 3.9 | 5.1 |

表12 男女、雇用形態、週間就業時間別 雇用者数
（年間就業日数200日以上）（平成29年）

（単位：千人，%）

| 週間就業時間 | 総数 | 35時間未満 | 35～42時間 | 43～48時間 | 49～59時間 | 60時間以上 |
|--------------|-------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 実 数 | | | | | | |
| 総数 | | | | | | |
| 雇用者 1) | 516.3 | 81.7 | 164.9 | 137.4 | 78.9 | 53.4 |
| うち正規の職員・従業員 | 364.4 | 26.2 | 111.1 | 114.3 | 66.2 | 46.3 |
| うち非正規の職員・従業員 | 122.4 | 50.8 | 43.8 | 16.6 | 8.0 | 3.0 |
| 男 | | | | | | |
| 雇用者 1) | 318.4 | 28.3 | 92.9 | 92.6 | 58.9 | 45.4 |
| うち正規の職員・従業員 | 250.3 | 13.7 | 65.8 | 80.8 | 50.2 | 39.7 |
| うち非正規の職員・従業員 | 43.9 | 11.8 | 18.3 | 6.0 | 5.3 | 2.3 |
| 女 | | | | | | |
| 雇用者 1) | 197.8 | 53.4 | 72.0 | 44.7 | 19.7 | 7.8 |
| うち正規の職員・従業員 | 114.2 | 12.4 | 45.3 | 33.5 | 15.9 | 6.7 |
| うち非正規の職員・従業員 | 78.6 | 39.1 | 25.5 | 10.5 | 2.9 | 0.8 |
| 構 成 比 | | | | | | |
| 総数 | | | | | | |
| 雇用者 1) | 100.0 | 15.8 | 31.9 | 26.6 | 15.3 | 10.3 |
| うち正規の職員・従業員 | 100.0 | 7.2 | 30.5 | 31.4 | 18.2 | 12.7 |
| うち非正規の職員・従業員 | 100.0 | 41.5 | 35.8 | 13.6 | 6.5 | 2.5 |
| 男 | | | | | | |
| 雇用者 1) | 100.0 | 8.9 | 29.2 | 29.1 | 18.5 | 14.3 |
| うち正規の職員・従業員 | 100.0 | 5.5 | 26.3 | 32.3 | 20.1 | 15.9 |
| うち非正規の職員・従業員 | 100.0 | 26.9 | 41.7 | 13.7 | 12.1 | 5.2 |
| 女 | | | | | | |
| 雇用者 1) | 100.0 | 27.0 | 36.4 | 22.6 | 10.0 | 3.9 |
| うち正規の職員・従業員 | 100.0 | 10.9 | 39.7 | 29.3 | 13.9 | 5.9 |
| うち非正規の職員・従業員 | 100.0 | 49.7 | 32.4 | 13.4 | 3.7 | 1.0 |

1) 会社などの役員を含む

間未満」の41.5%が最も多く、次いで「35～42時間」の35.8%となっており、この2つで8割弱を占めている。中でも、女性の非正規の職員・従業員では、「35時間未満」が49.7%と半数近くを占めている。また、週間就業時間が「60時間以上」の割合をみると、男性の正規の職員・従業員で15.9%、非正規の職員・従業員では5.2%となっているが、一方、女性の正規の職員・従業員では5.9%、非正規の職員・従業員では1.0%となっており、男性の方が女性より週間就業時間が長い傾向にある。

(9) 所得(主な仕事からの年間収入)

① 概況

所得が300万円未満の者が約5割

有業者76万200人を所得(主な仕事からの年間収入)別にみると、「100万円未満」が14万4,700人(構成比19.0%)と最も多く、次いで「200～299万円」が12万2,000人(同16.0%)、「100～199万円」が11万1,400人(同14.7%)となっている。所得が300万円未満の者が有業者に占める割合は49.7%で、全体の約5割となっている。

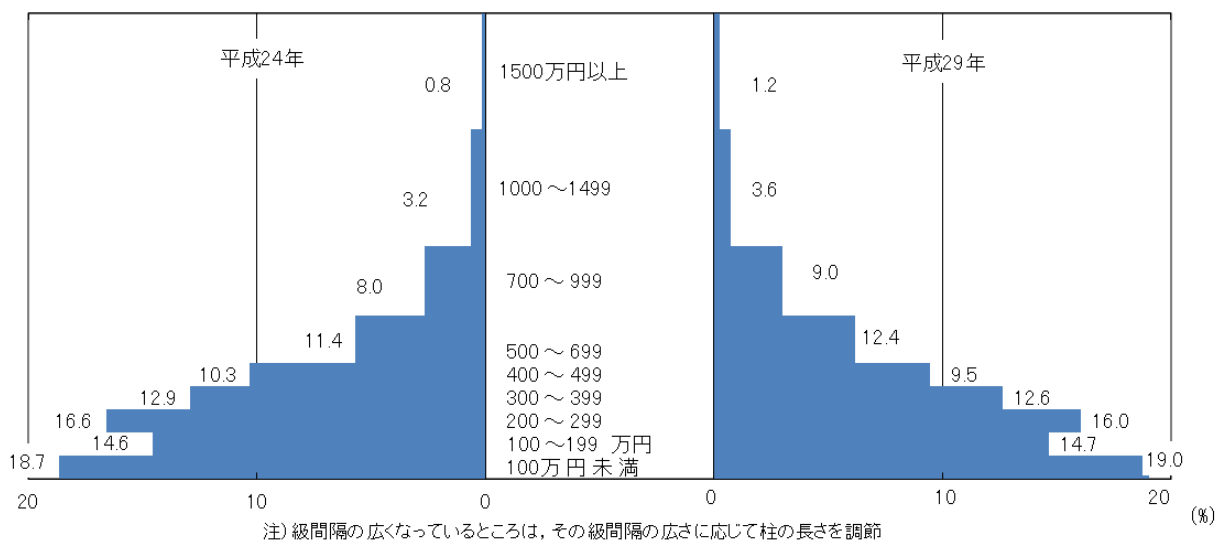
前回調査と構成比を比較すると、最も低下したのは、「400～499万円」の0.8ポイント減、次いで「200～299万円」の0.5ポイント減となっている。最も上昇したのは「500～699万円」、「700～999万円」の1.0ポイント増となっている。

表13 所得別 有業者数(平成14～29年)

| 所得 | 実数 | | | | 構成比 | | | |
|-----------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|
| | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 |
| 総数 1) | 700.2 | 730.6 | 719.2 | 760.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 100万円未満 | 128.4 | 134.8 | 134.3 | 144.7 | 18.3 | 18.5 | 18.7 | 19.0 |
| 100～199万円 | 95.8 | 112.8 | 104.8 | 111.4 | 13.7 | 15.4 | 14.6 | 14.7 |
| 200～299 | 98.0 | 118.9 | 119.2 | 122.0 | 14.0 | 16.3 | 16.6 | 16.0 |
| 300～399 | 83.0 | 92.1 | 92.8 | 95.9 | 11.9 | 12.6 | 12.9 | 12.6 |
| 400～499 | 64.8 | 71.5 | 74.1 | 71.9 | 9.3 | 9.8 | 10.3 | 9.5 |
| 500～699 | 91.1 | 81.0 | 82.1 | 94.2 | 13.0 | 11.1 | 11.4 | 12.4 |
| 700～999 | 55.6 | 72.5 | 57.7 | 68.7 | 7.9 | 9.9 | 8.0 | 9.0 |
| 1000～1499 | 28.7 | 23.3 | 22.7 | 27.1 | 4.1 | 3.2 | 3.2 | 3.6 |
| 1500万円以上 | 3.3 | 8.6 | 5.9 | 9.0 | 0.5 | 1.2 | 0.8 | 1.2 |

1) 「家族従業者」を含む

図13 有業者の所得別割合(平成24年、29年)



②男女別

女性は所得 300 万円未満の者が7割超

男女別に所得の構成比を比較すると、男性は「300～399万円」の14.9%をピークとして、「200～299万円」の13.6%、「400～499万円」の12.2%と上下に分布している。一方、女性は「100万円未満」の31.1%が最も多く、次いで「100～199万円」の21.3%、「200～299万円」の19.1%が続いており、この3階層で7割超を占めている。女性は所得が上がるほど構成比が下がる傾向がある。

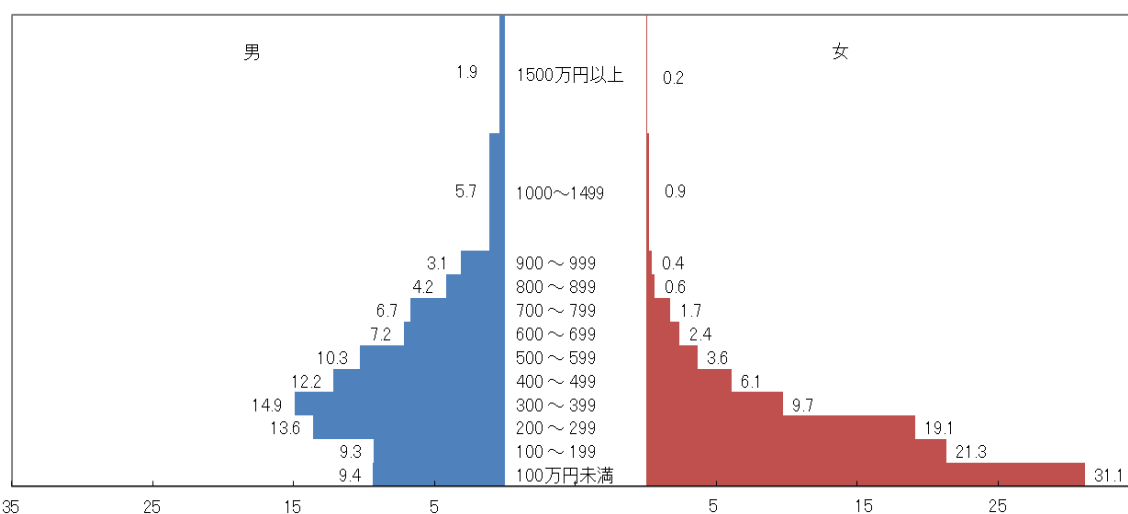
「500万円未満」についてみると、男性の59.4%に対し、女性は87.3%と、男女間の差が27.9ポイントとなっており、前回調査の26.7ポイントと比べて拡大している。

表14 所得, 男女別有業者数(平成29年)
(単位: 千人, %)

| 所得 | 男女 | 総数 | 男 | 女 | 構成比 | | |
|--------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | | 総数 | 男 | 女 |
| 総数 1) | | 760.2 | 423.0 | 337.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 100万円未満 | | 144.7 | 39.7 | 105.0 | 19.0 | 9.4 | 31.1 |
| 100 ～ 199 万円 | | 111.4 | 39.5 | 71.9 | 14.7 | 9.3 | 21.3 |
| 200 ～ 299 | | 122.0 | 57.6 | 64.4 | 16.0 | 13.6 | 19.1 |
| 300 ～ 399 | | 95.9 | 63.2 | 32.7 | 12.6 | 14.9 | 9.7 |
| 400 ～ 499 | | 71.9 | 51.4 | 20.5 | 9.5 | 12.2 | 6.1 |
| 500 ～ 599 | | 55.9 | 43.5 | 12.3 | 7.4 | 10.3 | 3.6 |
| 600 ～ 699 | | 38.3 | 30.3 | 8.0 | 5.0 | 7.2 | 2.4 |
| 700 ～ 799 | | 34.2 | 28.3 | 5.9 | 4.5 | 6.7 | 1.7 |
| 800 ～ 899 | | 19.8 | 17.7 | 2.1 | 2.6 | 4.2 | 0.6 |
| 900 ～ 999 | | 14.7 | 13.3 | 1.4 | 1.9 | 3.1 | 0.4 |
| 1000 ～1499 | | 27.1 | 23.9 | 3.2 | 3.6 | 5.7 | 0.9 |
| 1500 万円 以上 | | 9.0 | 8.1 | 0.8 | 1.2 | 1.9 | 0.2 |
| (再掲) | | | | | | | |
| 500万 円 未 満 | | 545.9 | 251.4 | 294.5 | 71.8 | 59.4 | 87.3 |
| 500万 円 以 上 | | 199.0 | 165.1 | 33.7 | 26.2 | 39.0 | 10.0 |

1) 家族従業者を含む

図14 男女別 有業者の所得別割合(平成29年)



注) 級間隔の広がっているところは、その級間隔の広さに応じて柱の長さを調節

(%)

③従業上の地位別

雇用者より自営業主の方が所得の低い者の割合が高い

自営業主と雇用者（役員を含む）で所得の構成比を比較すると、自営業主では「100万円未満」が33.7%と最も多く、次いで「100～199万円」が22.3%、「300～399万円」が9.6%となっており、200万円未満の者が5割以上を占めている。雇用者では「100万円未満」が18.2%と最も多く、次いで「200～299万円」が16.7%、「100～199万円」が14.3%となっている。雇用者は、自営業主と比べて500万～1499万円の層で構成比が2倍以上となっている。一方、「1500万円以上」の者は、雇用者より自営業主の構成比の方が高くなっている。

表15 所得，従業上の地位別 有業者数(平成29年)

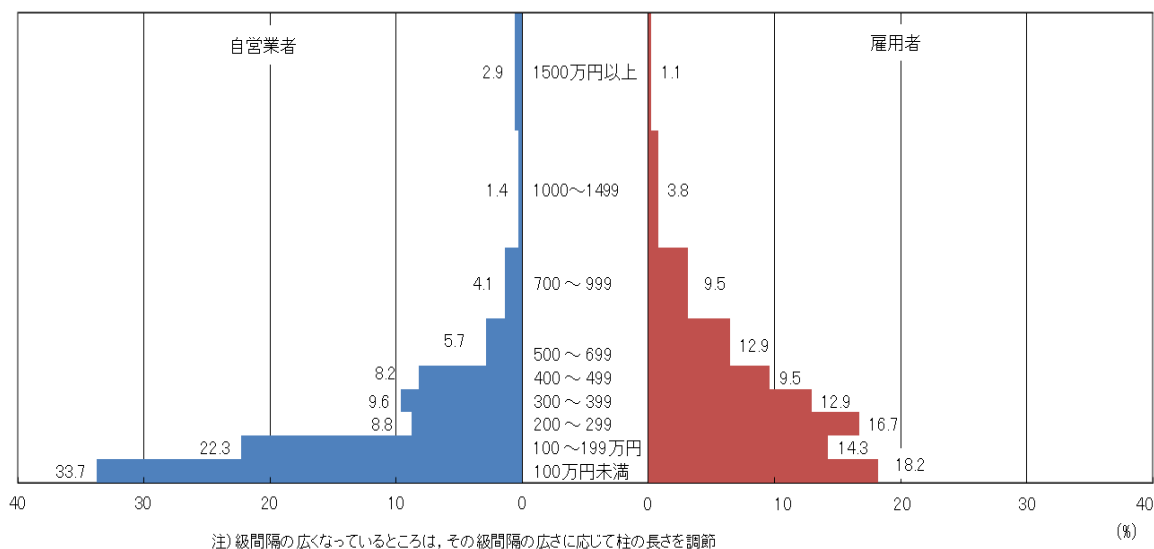
(単位：千人，%)

| 所得 | 実数 | | | 構成比 | | |
|-------------------|-------|------------|-----------|-------|------------|-----------|
| | 総数 | 自営業主 1) | 雇用者 2) | 総数 | 自営業主 1) | 雇用者 2) |
| 総数 | 760.2 | 48.9 | 704.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 100万円未満 | 144.7 | 16.5 | 128.2 | 19.0 | 33.7 | 18.2 |
| 100～199万円 | 111.4 | 10.9 | 100.5 | 14.7 | 22.3 | 14.3 |
| 200～299 | 122.0 | 4.3 | 117.6 | 16.0 | 8.8 | 16.7 |
| 300～399 | 95.9 | 4.7 | 91.1 | 12.6 | 9.6 | 12.9 |
| 400～499 | 71.9 | 4.0 | 67.9 | 9.5 | 8.2 | 9.6 |
| 500～699 | 94.2 | 2.8 | 91.2 | 12.4 | 5.7 | 12.9 |
| 700～999 | 68.7 | 2.0 | 66.7 | 9.0 | 4.1 | 9.5 |
| 1000～1499 (再掲) | 27.1 | 0.7 | 26.5 | 3.6 | 1.4 | 3.8 |
| 1500万円以上 | 9.0 | 1.4 | 7.5 | 1.2 | 2.9 | 1.1 |
| 500万円未満 | 545.9 | 40.4 | 505.3 | 71.8 | 82.6 | 71.7 |
| 500万円以上 | 199.0 | 6.9 | 191.9 | 26.2 | 14.1 | 27.2 |

1) 「家族従業者」を含む。

2) 会社などの役員を含む

図15 従業上の地位別 有業者の所得別割合(平成29年)



④雇用形態別

表16 主な雇用形態、所得、男女別 雇用者数(平成29年)

(単位：千人、%)

「派遣社員」、「契約社員」では「200～299万円」が最も多い

主な雇用形態ごとに所得の構成比をみると、正規の職員・従業員では、500万円以上が41.4%を占めている。男女別にみると、男性では50.3%と半数を超えているが、女性では22.7%となっている。分布は、男性が「300～399万円」、女性が「200～299万円」をピークとして、上下に広がる形となっている。

「パート」では「100万円未満」が54.1%を占めている。男女別にみると、男性では「100～199万円」が52.0%と最も多く、女性では「100万円未満」が57.4%と最も多くなっている。

「アルバイト」では、「100万円未満」が72.5%を占めている。

男女別にみると、男女ともに「100万円未満」が最も多く、それぞれ66.9%、78.0%となっている。

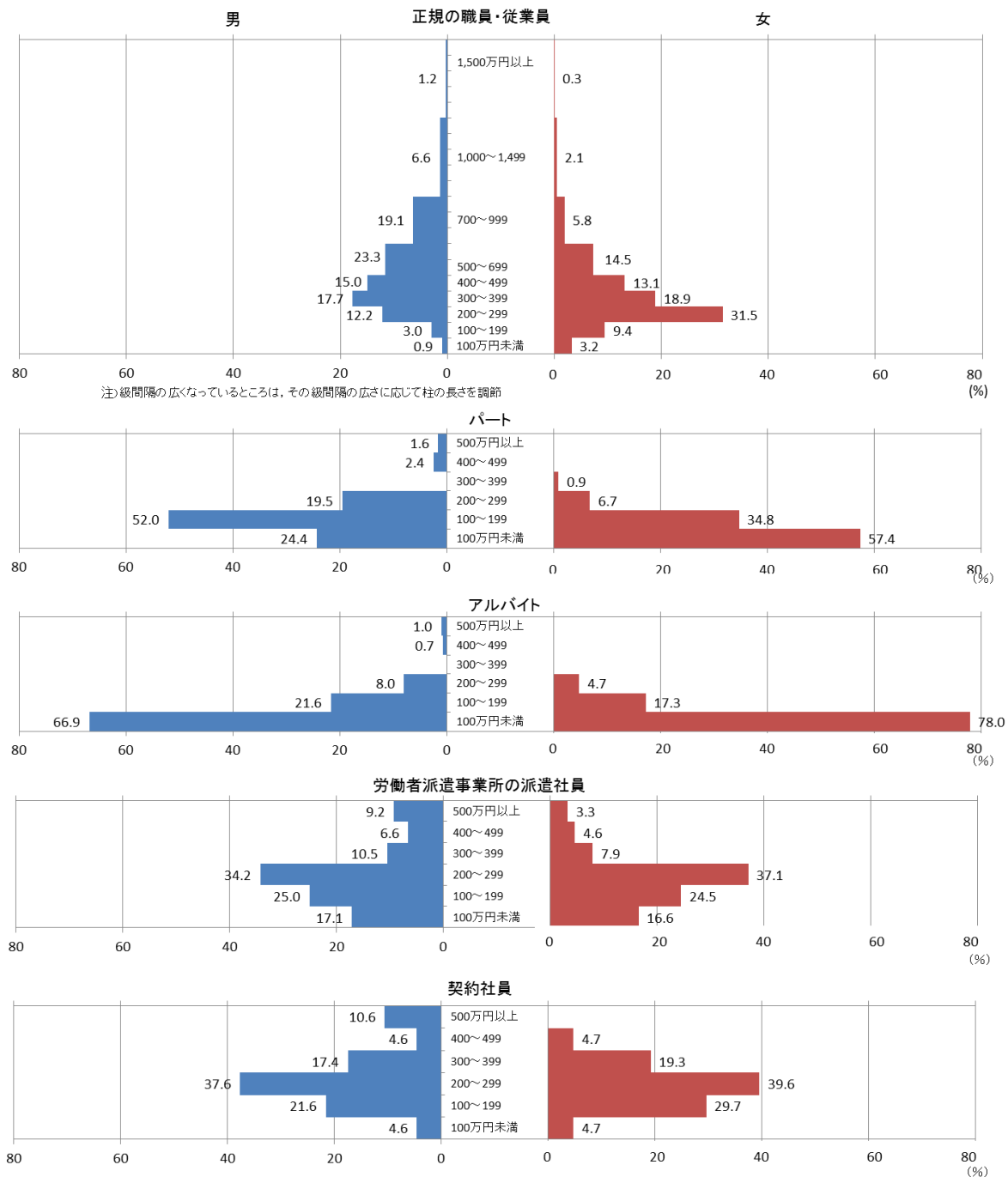
「労働者派遣事業所の派遣社員」では、「200～299万円」が35.7%と最も多く、300万円未満が7割以上を占めている。男女別にみると、男女ともに「200～299万円」が最も多く、それぞれ34.2%、37.1%となっている。

「契約社員」では、「200～299万円」が38.5%と最も多い。男女別にみると、男女ともに「200～299万円」が最も多く、それぞれ37.6%、39.6%となっている。また「500万円以上」は男性では10.6%となっているが、女性ではない。

| 雇用形態別 所得 | 実数 | | | 構成比 | | | |
|-------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 総数 | 男 | 女 | 総数 | 男 | 女 | |
| 正規の職員・従業員 | 総数 | 405.9 | 275.6 | 130.3 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 100万円未満 | 6.8 | 2.6 | 4.2 | 1.7 | 0.9 | 3.2 |
| | 100～199 | 20.6 | 8.3 | 12.3 | 5.1 | 3.0 | 9.4 |
| | 200～299 | 74.7 | 33.6 | 41.0 | 18.4 | 12.2 | 31.5 |
| | 300～399 | 73.4 | 48.9 | 24.6 | 18.1 | 17.7 | 18.9 |
| | 400～499 | 58.4 | 41.3 | 17.1 | 14.4 | 15.0 | 13.1 |
| | 500～699 | 83.2 | 64.3 | 18.9 | 20.5 | 23.3 | 14.5 |
| | 700～999 | 60.3 | 52.7 | 7.6 | 14.9 | 19.1 | 5.8 |
| パート | 1,000～1,499 | 21.0 | 18.3 | 2.7 | 5.2 | 6.6 | 2.1 |
| | 1,500万円以上 (再掲) | 3.6 | 3.2 | 0.4 | 0.9 | 1.2 | 0.3 |
| | 500万円以上 | 168.1 | 138.5 | 29.6 | 41.4 | 50.3 | 22.7 |
| | 総数 | 120.5 | 12.3 | 108.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| アルバイト | 100万円未満 | 65.2 | 3.0 | 62.1 | 54.1 | 24.4 | 57.4 |
| | 100～199 | 44.0 | 6.4 | 37.6 | 36.5 | 52.0 | 34.8 |
| | 200～299 | 9.7 | 2.4 | 7.3 | 8.0 | 19.5 | 6.7 |
| | 300～399 | 1.0 | — | 1.0 | 0.8 | — | 0.9 |
| | 400～499 | 0.3 | 0.3 | — | 0.2 | 2.4 | — |
| | 500万円以上 | 0.2 | 0.2 | — | 0.2 | 1.6 | — |
| 派遣社員 | 総数 | 58.2 | 28.7 | 29.5 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 100万円未満 | 42.2 | 19.2 | 23.0 | 72.5 | 66.9 | 78.0 |
| | 100～199 | 11.3 | 6.2 | 5.1 | 19.4 | 21.6 | 17.3 |
| | 200～299 | 3.6 | 2.3 | 1.4 | 6.2 | 8.0 | 4.7 |
| | 300～399 | — | — | — | — | — | — |
| | 400～499 | 0.2 | 0.2 | — | 0.3 | 0.7 | — |
| 契約社員 | 500万円以上 | 0.3 | 0.3 | — | 0.5 | 1.0 | — |
| | 総数 | 22.7 | 7.6 | 15.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 100万円未満 | 3.7 | 1.3 | 2.5 | 16.3 | 17.1 | 16.6 |
| | 100～199 | 5.6 | 1.9 | 3.7 | 24.7 | 25.0 | 24.5 |
| | 200～299 | 8.1 | 2.6 | 5.6 | 35.7 | 34.2 | 37.1 |
| | 300～399 | 2.0 | 0.8 | 1.2 | 8.8 | 10.5 | 7.9 |
| 1) | 400～499 | 1.2 | 0.5 | 0.7 | 5.3 | 6.6 | 4.6 |
| | 500万円以上 | 1.2 | 0.7 | 0.5 | 5.3 | 9.2 | 3.3 |
| | 総数 | 41.0 | 21.8 | 19.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 100万円未満 | 1.9 | 1.0 | 0.9 | 4.6 | 4.6 | 4.7 |
| | 100～199 | 10.4 | 4.7 | 5.7 | 25.4 | 21.6 | 29.7 |
| | 200～299 | 15.8 | 8.2 | 7.6 | 38.5 | 37.6 | 39.6 |
| 2) | 300～399 | 7.4 | 3.8 | 3.7 | 18.0 | 17.4 | 19.3 |
| | 400～499 | 2.0 | 1.0 | 0.9 | 4.9 | 4.6 | 4.7 |
| | 500万円以上 | 2.3 | 2.3 | — | 5.6 | 10.6 | — |

1) 労働者派遣事業所の派遣社員

図16 男女別、雇用形態別 雇用者の所得別割合(平成29年)



3. 無業者

(1) 就業希望の有無

無業者数は平成14年以降最小、無業者に占める就業希望者、求職者の割合はともに低下

無業者58万9,400人のうち、就業を希望している者(就業希望者)は11万8,200人(構成比20.1%)であり、そのうち求職活動を行っている者(求職者)は4万9,900人(同8.5%)である。

表17 男女別 就業希望者数、求職者数(無業者)
(平成14~29年)

| 就業希望、 求職活動の有無 | 実数 | | | | 構成比 | | | |
|------------------|-----------|-------|-------|--------------|-----------|-------|-------|--------------|
| | 平成 14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成 14年 | 19年 | 24年 | 29年 |
| 総数 | | | | | | | | |
| 無業者 | 613.3 | 600.4 | 626.2 | 589.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 就業希望者 | 187.8 | 150.2 | 161.3 | 118.2 | 30.6 | 25.0 | 25.8 | 20.1 |
| 求職者 | 93.3 | 74.3 | 76.5 | 49.9 | 15.2 | 12.4 | 12.2 | 8.5 |
| 男 | | | | | | | | |
| 無業者 | 204.6 | 208.4 | 218.4 | 209.8 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 就業希望者 | 66.3 | 57.2 | 58.5 | 44.0 | 32.4 | 27.4 | 26.8 | 21.0 |
| 求職者 | 39.4 | 31.9 | 32.2 | 23.5 | 19.3 | 15.3 | 14.7 | 11.2 |
| 女 | | | | | | | | |
| 無業者 | 408.7 | 392.0 | 407.8 | 379.6 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 就業希望者 | 121.5 | 93.0 | 102.8 | 74.2 | 29.7 | 23.7 | 25.2 | 19.5 |
| 求職者 | 53.9 | 42.3 | 44.4 | 26.4 | 13.2 | 10.8 | 10.9 | 7.0 |

男女別にみると、無業者に占める就業希望者の割合は、男性21.0%、女性19.5%と男性の方が高い。また、無業者に占める求職者の割合は、男性11.2%、女性7.0%と男性の方が高い。

無業者は平成14年以降最小となっている。また、平成14年からの無業者に占める就業希望者、求職者の割合の推移をみると、男性は就業希望者、求職者ともに低下傾向にある。女性は就業希望者、求職者ともに上昇、低下を繰り返し、平成29年はともに低下した。

(2) 就業希望理由

経済的理由の割合が4割弱を占める

「就業希望者」11万8,200人について、就業希望理由をみると、最も多いのは「収入を得る必要が生じた」の2万7,500人(構成比23.3%)、次いで「失業している」の1万7,200人(同14.6%)と、経済的理由が上位を占め、この2つで37.9%となっている。

男女別に前回調査と構成比を比較すると、男性は「知識や技能を生かしたい」が3.6ポイント上昇し、「その他」は6.0ポイント低下した。一方、女性は「時間に余裕ができた」が4.2ポイント上昇し、「収入を得る必要が生じた」は10.6ポイント低下した。

表18 男女、就業希望理由別 無業者の就業希望者数(平成19~29年)

| 就業希望理由 | 総数 | 失業している | 学校を卒業した | 収入を得る必要が生じた | 知識や技能を生かしたい | 社会に出たい | 時間に余裕ができた | 健康を維持したい | その他 |
|------------|--------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | | | |
| 平成19年 | 150.2 | 28.1 | 1.3 | 34.6 | 16.7 | 19.5 | 17.2 | 11.3 | 20.9 |
| 24年 | 161.3 | 25.9 | 1.2 | 46.9 | 15.1 | 19.8 | 14.1 | 14.3 | 23.0 |
| 29年 | 118.2 | 17.2 | 3.0 | 27.5 | 16.4 | 11.9 | 14.3 | 11.3 | 16.2 |
| 男 | | | | | | | | | |
| 平成19年 | 57.2 | 16.8 | 0.4 | 10.1 | 7.0 | 6.2 | 3.3 | 5.9 | 7.1 |
| 24年 | 58.5 | 16.2 | 0.9 | 10.1 | 5.9 | 4.3 | 3.2 | 7.8 | 9.9 |
| 29年 | 44.0 | 11.4 | 1.1 | 8.8 | 6.0 | 2.4 | 3.3 | 6.2 | 4.8 |
| 女 | | | | | | | | | |
| 平成19年 | 93.0 | 11.3 | 0.9 | 24.5 | 9.7 | 13.3 | 13.9 | 5.4 | 13.9 |
| 24年 | 102.8 | 9.7 | 0.2 | 36.8 | 9.2 | 15.5 | 10.9 | 6.6 | 13.1 |
| 29年 | 74.2 | 5.8 | 2.0 | 18.7 | 10.4 | 9.5 | 11.0 | 5.1 | 11.4 |
| 総数 | | | | | | | | | |
| 平成19年 | 100.0 | 18.7 | 0.9 | 23.0 | 11.1 | 13.0 | 11.5 | 7.5 | 13.9 |
| 24年 | 100.0 | 16.1 | 0.7 | 29.1 | 9.4 | 12.3 | 8.7 | 8.9 | 14.3 |
| 29年 | 100.0 | 14.6 | 2.5 | 23.3 | 13.9 | 10.1 | 12.1 | 9.6 | 13.7 |
| 男 | | | | | | | | | |
| 平成19年 | 100.0 | 29.4 | 0.7 | 17.7 | 12.2 | 10.8 | 5.8 | 10.3 | 12.4 |
| 24年 | 100.0 | 27.7 | 1.5 | 17.3 | 10.1 | 7.4 | 5.5 | 13.3 | 16.9 |
| 29年 | 100.0 | 25.9 | 2.5 | 20.0 | 13.6 | 5.5 | 7.5 | 14.1 | 10.9 |
| 女 | | | | | | | | | |
| 平成19年 | 100.0 | 12.2 | 1.0 | 26.3 | 10.4 | 14.3 | 14.9 | 5.8 | 14.9 |
| 24年 | 100.0 | 9.4 | 0.2 | 35.8 | 8.9 | 15.1 | 10.6 | 6.4 | 12.7 |
| 29年 | 100.0 | 7.8 | 2.7 | 25.2 | 14.0 | 12.8 | 14.8 | 6.9 | 15.4 |

「収入を得る必要が生じた」は10.6ポイント低下した。

(3) 非求職理由

「出産・育児のため」が最も多い

就業希望者 11 万 8,200 人のうち、6 万 8,100 人は求職活動を行っていない。就業希望者のうち非求職者について、求職活動を行っていない理由（非求職理由）をみると、最も多いのは「出産・育児のため」の 1 万 600 人（構成比 15.6%）である。男女別にみると、男性では「病気・けがのため」が 5,600 人（同 27.5%）と最も多く、女性では「出産・育児のため」が 1 万 400 人（同 21.8%）と最も多い。

表 19 男女、非求職理由別 就業希望者数（非求職者）（無業者）（平成29年）

（単位：千人、%）

| 非求職理由 | 総数 | 探したが 見つから なかった | 希望する 仕事があ りそうに ない | 知識・ 能力に 自信が ない | 出産・ 育児の ため | 介護・ 看護の ため | 病気・ けがの ため | 高齢の ため | 通学の ため | 学校以外で 進学や資格 取得などの 勉強をして いる | 急いで仕事 につく必要 がない | その他 |
|-------|-------|----------------------|----------------------------|-------------------------|------------------|------------------|------------------|-----------|-----------|--|-----------------------|------|
| | 実 数 | | | | | | | | | | | |
| 総数 | 68.1 | 5.3 | 4.3 | 2.1 | 10.6 | 4.1 | 10.1 | 7.5 | 2.9 | 2.3 | 10.0 | 9.0 |
| 男 | 20.4 | 2.1 | 1.3 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 5.6 | 2.9 | 2.1 | 1.4 | 1.7 | 2.2 |
| 女 | 47.7 | 3.2 | 2.9 | 1.9 | 10.4 | 3.5 | 4.5 | 4.6 | 0.8 | 0.9 | 8.3 | 6.8 |
| | 構 成 比 | | | | | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 7.8 | 6.3 | 3.1 | 15.6 | 6.0 | 14.8 | 11.0 | 4.3 | 3.4 | 14.7 | 13.2 |
| 男 | 100.0 | 10.3 | 6.4 | 1.0 | 1.0 | 3.4 | 27.5 | 14.2 | 10.3 | 6.9 | 8.3 | 10.8 |
| 女 | 100.0 | 6.7 | 6.1 | 4.0 | 21.8 | 7.3 | 9.4 | 9.6 | 1.7 | 1.9 | 17.4 | 14.3 |

(4) 非就業希望理由

「高齢のため」が最も多い

無業者 58 万 9,400 人のうち、47 万 700 人は就業を希望していない。その理由をみると、「高齢のため」が 22 万 4,100 人（構成比 47.6%）と最も多く、次いで「通学のため」が 6 万 7,500 人（同 14.3%）となっている。男女別にみると、男女ともに「高齢のため」がそれぞれ 7 万 8,400 人（同 47.3%）、14 万 5,700 人（同 47.8%）と最も多く、次いで男性は「通学のため」が 3 万 3,900 人（同 20.5%）、女性は「病気、けがのため」が 3 万 4,600 人（同 11.3%）となっている。

表 20 男女、非就業希望理由別 非就業希望者数（無業者）（平成29年）

（単位：千人、%）

| 非就業 希望 理由 | 総数 | 出産・ 育児の ため | 介護・ 看護の ため | 家事（出産・ 育児・介護・ 看護以外） のため | 通学の ため | 病気・ けがの ため | 高齢の ため | 学校以外で 進学や資格 取得などの 勉強をして いる | ボランティ ア活動に従 事している | 仕事をする 自信がない | その他 | 特に理由 はない |
|-----------------|-------|------------------|------------------|----------------------------------|-----------|------------------|-----------|--|-------------------------|----------------|------|-------------|
| | 実 数 | | | | | | | | | | | |
| 総数 | 470.7 | 11.0 | 11.1 | 13.8 | 67.5 | 53.7 | 224.1 | 1.8 | 9.0 | 9.2 | 23.2 | 46.2 |
| 男 | 165.6 | — | 2.4 | 0.5 | 33.9 | 19.1 | 78.4 | — | 3.8 | 1.6 | 9.8 | 16.2 |
| 女 | 305.1 | 11.0 | 8.8 | 13.4 | 33.6 | 34.6 | 145.7 | 1.8 | 5.3 | 7.5 | 13.5 | 30.0 |
| | 構 成 比 | | | | | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 2.3 | 2.4 | 2.9 | 14.3 | 11.4 | 47.6 | 0.4 | 1.9 | 2.0 | 4.9 | 9.8 |
| 男 | 100.0 | — | 1.4 | 0.3 | 20.5 | 11.5 | 47.3 | — | 2.3 | 1.0 | 5.9 | 9.8 |
| 女 | 100.0 | 3.6 | 2.9 | 4.4 | 11.0 | 11.3 | 47.8 | 0.6 | 1.7 | 2.5 | 4.4 | 9.8 |

4. 就業異動

(1) 過去1年以内の就業異動

①概況

転職率、離職率はいずれも低下

過去1年以内の就業異動により15歳以上人口134万9,500人を分類すると、継続就業者※1 66万2,900人、転職者※2 3万9,500人、離職者※3 4万600人、新規就業者※4 4万9,000人、継続非就業者※5 54万7,600人となった。1年前の有業者（継続就業者+転職者+離職者）は74万3,000人で、そのうち転職者の占める割合（転職率）は5.3%、離職者の占める割合（離職率）は5.5%であった。転職率、離職率ともに、平成14年以降最小となっている。

- ※1 継続就業者：1年前も現在と同じ勤め先で就業していた者
- ※2 転職者：1年前の勤め先と現在の勤め先が異なる者
- ※3 離職者：1年前には仕事をしていなかったが、その仕事を辞めて、現在は仕事をしていない者
- ※4 新規就業者：1年前には仕事をしていなかったが、この1年間に現在の仕事に就いた者
- ※5 継続非就業者：1年前も現在も仕事をしていない者

表21 過去1年以内の就業異動, 男女別 15歳以上人口(平成14~29年)

| 過去1年以内の 就業異動 | 総数 | | | | 男 | | | | 女 | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|
| | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 | 平成14年 | 19年 | 24年 | 29年 |
| 継続就業者 | 589.3 | 631.4 | 616.3 | 662.9 | 364.3 | 371.3 | 362.7 | 381.0 | 225.0 | 260.1 | 253.6 | 281.9 |
| 転職者 | 37.2 | 41.9 | 40.6 | 39.5 | 15.4 | 18.0 | 20.8 | 17.4 | 21.8 | 23.9 | 19.8 | 22.1 |
| 離職者 | 53.2 | 46.7 | 42.1 | 40.6 | 24.5 | 19.6 | 18.9 | 19.8 | 28.7 | 27.0 | 23.2 | 20.8 |
| 新規就業者 | 59.2 | 45.2 | 49.4 | 49.0 | 23.9 | 18.5 | 18.0 | 20.2 | 35.3 | 26.7 | 31.3 | 28.8 |
| 継続非就業者 | 557.7 | 552.2 | 581.3 | 547.6 | 179.2 | 187.8 | 198.5 | 189.5 | 378.5 | 364.4 | 382.8 | 358.0 |
| 1年前の有業者 | 679.7 | 720.0 | 699.0 | 743.0 | 404.2 | 408.9 | 402.4 | 418.2 | 275.5 | 311.0 | 296.6 | 324.8 |
| 転職率 | 5.5 | 5.8 | 5.8 | 5.3 | 3.8 | 4.4 | 5.2 | 4.2 | 7.9 | 7.7 | 6.7 | 6.8 |
| 離職率 | 7.8 | 6.5 | 6.0 | 5.5 | 6.1 | 4.8 | 4.7 | 4.7 | 10.4 | 8.7 | 7.8 | 6.4 |

②年齢(5歳階級)別転職者

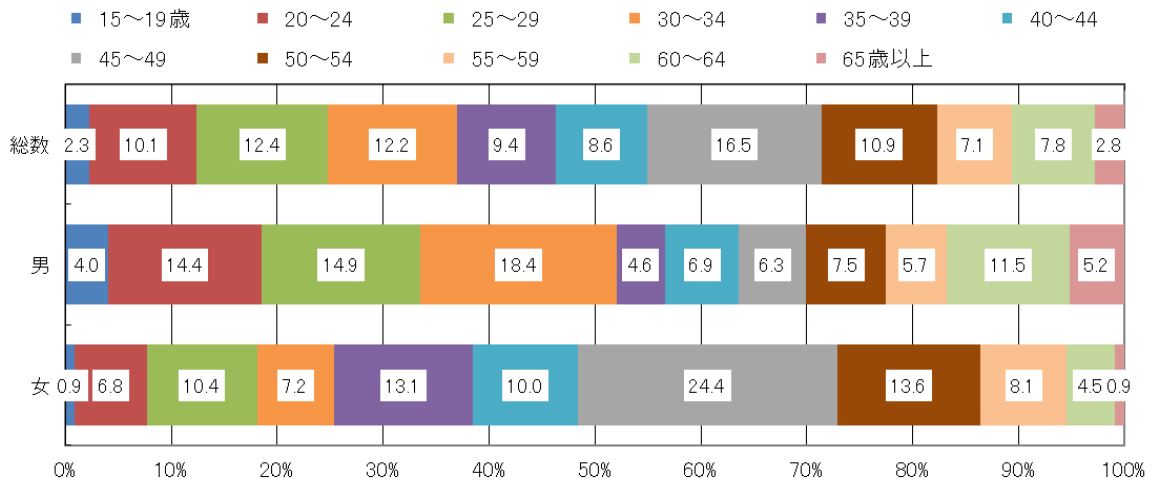
転職者は45~49歳で最も多い

過去1年以内の転職者について、年齢階級別に構成比をみると、「45~49歳」が16.5%と最も高く、次いで「25~29歳」が12.4%、「30~34歳」が12.2%となっている。

表22 年齢(5歳階級), 男女別 過去1年以内の転職者数(平成29年)

| 転職者数 | 実数 | | | 構成比 | | | (参考)全国 | | |
|--------|------|------|------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| | 総数 | 男 | 女 | 総数 | 男 | 女 | 総数 | 男 | 女 |
| | | | | | | | | | |
| 総数 | 39.5 | 17.4 | 22.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 15~19歳 | 0.9 | 0.7 | 0.2 | 2.3 | 4.0 | 0.9 | 2.4 | 2.2 | 2.5 |
| 20~24 | 4.0 | 2.5 | 1.5 | 10.1 | 14.4 | 6.8 | 13.7 | 14.2 | 13.3 |
| 25~29 | 4.9 | 2.6 | 2.3 | 12.4 | 14.9 | 10.4 | 14.9 | 15.3 | 14.6 |
| 30~34 | 4.8 | 3.2 | 1.6 | 12.2 | 18.4 | 7.2 | 11.9 | 12.0 | 11.9 |
| 35~39 | 3.7 | 0.8 | 2.9 | 9.4 | 4.6 | 13.1 | 11.0 | 10.3 | 11.6 |
| 40~44 | 3.4 | 1.2 | 2.2 | 8.6 | 6.9 | 10.0 | 11.0 | 9.4 | 12.3 |
| 45~49 | 6.5 | 1.1 | 5.4 | 16.5 | 6.3 | 24.4 | 10.2 | 7.5 | 12.4 |
| 50~54 | 4.3 | 1.3 | 3.0 | 10.9 | 7.5 | 13.6 | 7.2 | 5.6 | 8.6 |
| 55~59 | 2.8 | 1.0 | 1.8 | 7.1 | 5.7 | 8.1 | 5.4 | 5.6 | 5.3 |
| 60~64 | 3.1 | 2.0 | 1.0 | 7.8 | 11.5 | 4.5 | 7.0 | 10.0 | 4.5 |
| 65歳以上 | 1.1 | 0.9 | 0.2 | 2.8 | 5.2 | 0.9 | 5.3 | 7.8 | 3.1 |

図17 年齢(5歳階級)別 過去1年以内の転職者割合(平成29年)

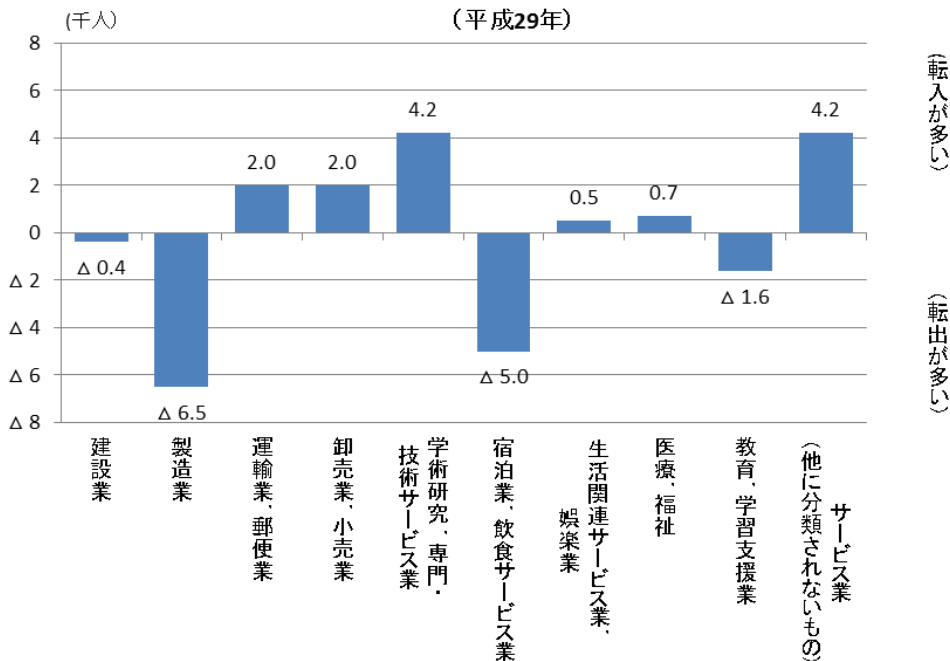


(2) 過去5年間の転職者

同一産業内での転職が最も多い

前職がある有業者で、かつ平成24年10月以降に前職を辞めたものについて、主な産業間の異動状況を見ると、転出超過となっている産業は「製造業」が6,500人と最も多く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」が5,000人、「教育、学習支援業」が1,600人となっている。一方、転入超過となっている産業は「学術研究、専門・技術サービス業」と「サービス業（他に分類されないもの）」が4,200人と最も多く、次いで「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」の2,000人となっている。

図18 主な産業別 過去5年間の転職就業者の転入、転出 (平成29年)



過去5年間の転職者について、前職の産業と現職の産業との関係を構成比でみると、どの産業においても同一産業内での転職が最も多い。転出超過が最も大きい「製造業」では、前職が「製造業」のうち「製造業」へ転職した者は33.8%となっている。転入超過が大きい「学術、専門・技術サービス業」では、前職が「学術、専門・技術サービス業」のうち「学術、専門・技術サービス業」へ転職した者の割合は44.8%となっている。また、産業全体でみると、前職が「卸売業、小売業」及び「医療、福祉」の転職者数が多くなっている。

表23 前職の主な産業、現職の主な産業別 過去5年間の転職者数、転職率(平成29年)

(単位：千人、%)

| 前職の産業 \ 現職の産業 | 総数 | 建設業 | 製造業 | 運輸業、郵便業 | 卸売業、小売業 | 学術研究、専門・技術サービス業 | 宿泊業、飲食サービス業 | 生活関連サービス業、娯楽業 | 教育、学習支援業 | 医療、福祉 | サービス業(他に分類されないもの) |
|-----------------|-------|-----|------|---------|---------|-----------------|-------------|---------------|----------|-------|-------------------|
| 総数 1) | 148.2 | 2.9 | 14.2 | 11.1 | 25.9 | 7.1 | 13.4 | 6.7 | 6.2 | 25.8 | 12.4 |
| 建設業 | 3.3 | 0.8 | 0.2 | 0.1 | 0.8 | 0.6 | — | — | — | 0.4 | 0.2 |
| 製造業 | 20.7 | 0.3 | 7.0 | 1.2 | 5.2 | 1.0 | 0.2 | 0.5 | 0.4 | 0.7 | 2.4 |
| 運輸業、郵便業 | 9.1 | — | 0.9 | 5.4 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | — | — | — | 0.4 |
| 卸売業、小売業 | 23.9 | 0.5 | 2.1 | 1.2 | 7.9 | 0.6 | 1.1 | 1.6 | 0.8 | 1.8 | 1.2 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 2.9 | — | 0.3 | — | 1.0 | 1.3 | — | — | — | 0.2 | — |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 18.4 | 0.2 | 0.4 | 1.4 | 3.6 | 1.1 | 8.3 | 1.2 | 0.2 | 0.5 | 0.4 |
| 生活関連サービス、娯楽業 | 6.2 | — | 0.3 | — | 0.4 | 0.2 | 1.2 | 1.8 | — | 0.9 | 0.4 |
| 教育、学習支援業 | 7.8 | — | — | — | 0.2 | 0.5 | 0.7 | 0.2 | 3.4 | 1.9 | 0.6 |
| 医療、福祉サービス業 | 25.1 | 0.5 | 1.1 | 0.2 | 1.3 | 0.9 | 0.6 | 0.5 | 0.9 | 15.9 | 1.6 |
| (他に分類されないもの) | 8.2 | 0.2 | 0.4 | 0.4 | 1.1 | 0.3 | 1.0 | 0.2 | 0.3 | 1.0 | 2.6 |

(現職の産業を100とする割合)

| 前職の産業 \ 現職の産業 | 総数 | 建設業 | 製造業 | 運輸業、郵便業 | 卸売業、小売業 | 学術研究、専門・技術サービス業 | 宿泊業、飲食サービス業 | 生活関連サービス業、娯楽業 | 教育、学習支援業 | 医療、福祉 | サービス業(他に分類されないもの) |
|-----------------|-------|-------|-------|---------|---------|-----------------|-------------|---------------|----------|-------|-------------------|
| 総数 1) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 建設業 | 2.2 | 27.6 | 1.4 | 0.9 | 3.1 | 8.5 | — | — | — | 1.6 | 1.6 |
| 製造業 | 14.0 | 10.3 | 49.3 | 10.8 | 20.1 | 14.1 | 1.5 | 7.5 | 6.5 | 2.7 | 19.4 |
| 運輸業、郵便業 | 6.1 | — | 6.3 | 48.6 | 2.3 | 2.8 | 1.5 | — | — | — | 3.2 |
| 卸売業、小売業 | 16.1 | 17.2 | 14.8 | 10.8 | 30.5 | 8.5 | 8.2 | 23.9 | 12.9 | 7.0 | 9.7 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 2.0 | — | 2.1 | — | 3.9 | 18.3 | — | — | — | 0.8 | — |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 12.4 | 6.9 | 2.8 | 12.6 | 13.9 | 15.5 | 61.9 | 17.9 | 3.2 | 1.9 | 3.2 |
| 生活関連サービス、娯楽業 | 4.2 | — | 2.1 | — | 1.5 | 2.8 | 9.0 | 26.9 | — | 3.5 | 3.2 |
| 教育、学習支援業 | 5.3 | — | — | — | 0.8 | 7.0 | 5.2 | 3.0 | 54.8 | 7.4 | 4.8 |
| 医療、福祉サービス業 | 16.9 | 17.2 | 7.7 | 1.8 | 5.0 | 12.7 | 4.5 | 7.5 | 14.5 | 61.6 | 12.9 |
| (他に分類されないもの) | 5.5 | 6.9 | 2.8 | 3.6 | 4.2 | 4.2 | 7.5 | 3.0 | 4.8 | 3.9 | 21.0 |

(前職の産業を100とする割合)

| 前職の産業 \ 現職の産業 | 総数 | 建設業 | 製造業 | 運輸業、郵便業 | 卸売業、小売業 | 学術研究、専門・技術サービス業 | 宿泊業、飲食サービス業 | 生活関連サービス業、娯楽業 | 教育、学習支援業 | 医療、福祉 | サービス業(他に分類されないもの) |
|-----------------|-------|------|------|---------|---------|-----------------|-------------|---------------|----------|-------|-------------------|
| 総数 1) | 100.0 | 2.0 | 9.6 | 7.5 | 17.5 | 4.8 | 9.0 | 4.5 | 4.2 | 17.4 | 8.4 |
| 建設業 | 100.0 | 24.2 | 6.1 | 3.0 | 24.2 | 18.2 | — | — | — | 12.1 | 6.1 |
| 製造業 | 100.0 | 1.4 | 33.8 | 5.8 | 25.1 | 4.8 | 1.0 | 2.4 | 1.9 | 3.4 | 11.6 |
| 運輸業、郵便業 | 100.0 | — | 9.9 | 59.3 | 6.6 | 2.2 | 2.2 | — | — | — | 4.4 |
| 卸売業、小売業 | 100.0 | 2.1 | 8.8 | 5.0 | 33.1 | 2.5 | 4.6 | 6.7 | 3.3 | 7.5 | 5.0 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 100.0 | — | 10.3 | — | 34.5 | 44.8 | — | — | — | 6.9 | — |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 100.0 | 1.1 | 2.2 | 7.6 | 19.6 | 6.0 | 45.1 | 6.5 | 1.1 | 2.7 | 2.2 |
| 生活関連サービス、娯楽業 | 100.0 | — | 4.8 | — | 6.5 | 3.2 | 19.4 | 29.0 | — | 14.5 | 6.5 |
| 教育、学習支援業 | 100.0 | — | — | — | 2.6 | 6.4 | 9.0 | 2.6 | 43.6 | 24.4 | 7.7 |
| 医療、福祉サービス業 | 100.0 | 2.0 | 4.4 | 0.8 | 5.2 | 3.6 | 2.4 | 2.0 | 3.6 | 63.3 | 6.4 |
| (他に分類されないもの) | 100.0 | 2.4 | 4.9 | 4.9 | 13.4 | 3.7 | 12.2 | 2.4 | 3.7 | 12.2 | 31.7 |

1) 「農業、林業」「漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」「複合サービス事業」「公務(他に分類されるものを除く)」「分類不能の産業」を含む

(3) 前職の離職理由(転職者および離職者)

「労働条件が悪かったため」が最も増加

前職がある者(うち有業者は「転職者」、無業者は「離職者」という。)のうち、平成24年10月1日以降に前職を辞めた者について、前職の離職理由をみると、転職者41万300人、離職者42万300人の合計83万600人(離職時期が昭和63年以後の者を含む)のうち、「その他」が13万8,600人(構成比16.7%)と最も多く、次いで「定年のため」が9万8,400人(同11.8%)、「病気・高齢のため」が6万6,200人(同8.0%)となっている。

前回調査と構成比を比較すると、「労働条件が悪かったため」が1.9ポイント増と最も上昇し、次いで「自分に向かない仕事だった」が0.9ポイント増、「病気、高齢のため」が0.8ポイント増となっている。一方、「会社倒産、事業所閉鎖のため」が1.5ポイント減と最も低下し、次いで「結婚のため」が1.0ポイント減、「事業不振や先行き不安」が0.8ポイント減となっている。

表24 男女、前職の離職理由別 転職者数及び離職者数(平成24、29年)

(単位:千人,%)

| 前職の離職理由 | 総数 | 会社倒産・事業所閉鎖のため | 人員整理・勸奨退職のため | 事業不振や先行き不安 | 定年のため | 雇用契約満了のため | 収入が少なかったため | 労働条件が悪かったため | 結婚のため | 出産・育児のため | 介護・看護のため | 病気・高齢のため | 自分に向かない仕事だった | 一時的にだけ | 家族の転職・転勤又は事業所の移転のため | その他 |
|---------|--------------|---------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|---------------------|--------------|
| | 1) | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 実 数 | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年 | 820.1 | 49.1 | 28.8 | 26.4 | 101.5 | 32.5 | 30.8 | 42.9 | 43.5 | 45.2 | 19.6 | 59.0 | 25.1 | 30.3 | 7.0 | 141.4 |
| 29年 | 830.6 | 37.6 | 27.0 | 20.4 | 98.4 | 36.6 | 30.8 | 59.5 | 35.4 | 41.5 | 21.9 | 66.2 | 32.7 | 28.8 | 10.1 | 138.6 |
| 男 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年 | 369.2 | 25.3 | 19.6 | 19.1 | 71.1 | 15.7 | 19.8 | 21.6 | 2.2 | 0.4 | 2.2 | 28.9 | 13.1 | 15.2 | 1.1 | 68.5 |
| 29年 | 360.6 | 17.1 | 17.0 | 13.1 | 72.2 | 18.1 | 19.3 | 30.2 | 0.7 | 0.3 | 5.4 | 31.1 | 17.6 | 13.1 | 1.1 | 62.4 |
| 女 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年 | 450.9 | 23.8 | 9.2 | 7.4 | 30.4 | 16.8 | 11.0 | 21.4 | 41.2 | 44.8 | 17.3 | 30.0 | 12.0 | 15.1 | 5.9 | 72.8 |
| 29年 | 470.1 | 20.5 | 9.9 | 7.2 | 26.2 | 18.5 | 11.4 | 29.3 | 34.7 | 41.2 | 16.5 | 35.1 | 15.1 | 15.7 | 9.0 | 76.1 |
| | | 構 成 比 | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年 | 100.0 | 6.0 | 3.5 | 3.2 | 12.4 | 4.0 | 3.8 | 5.2 | 5.3 | 5.5 | 2.4 | 7.2 | 3.1 | 3.7 | 0.9 | 17.2 |
| 29年 | 100.0 | 4.5 | 3.3 | 2.5 | 11.8 | 4.4 | 3.7 | 7.2 | 4.3 | 5.0 | 2.6 | 8.0 | 3.9 | 3.5 | 1.2 | 16.7 |
| 男 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年 | 100.0 | 6.9 | 5.3 | 5.2 | 19.3 | 4.3 | 5.4 | 5.9 | 0.6 | 0.1 | 0.6 | 7.8 | 3.5 | 4.1 | 0.3 | 18.6 |
| 29年 | 100.0 | 4.7 | 4.7 | 3.6 | 20.0 | 5.0 | 5.4 | 8.4 | 0.2 | 0.1 | 1.5 | 8.6 | 4.9 | 3.6 | 0.3 | 17.3 |
| 女 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成24年 | 100.0 | 5.3 | 2.0 | 1.6 | 6.7 | 3.7 | 2.4 | 4.7 | 9.1 | 9.9 | 3.8 | 6.7 | 2.7 | 3.3 | 1.3 | 16.1 |
| 29年 | 100.0 | 4.4 | 2.1 | 1.5 | 5.6 | 3.9 | 2.4 | 6.2 | 7.4 | 8.8 | 3.5 | 7.5 | 3.2 | 3.3 | 1.9 | 16.2 |

1) 平成24年は前職の離職時期が昭和57年以後の者を含む。

男性では「定年のため」、女性では「出産・育児のため」が多い

主な産業別に前職の離職理由（「その他」を除く）をみると、「定年のため」が最も多い産業は、「建設業」、「製造業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「教育、学習支援業」となっている。「学術研究専門・技術サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」では「病気、高齢のため」、「医療、福祉」、「サービス業（他に分類されないもの）」では「労働条件が悪かったため」が最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「定年のため」が最も多いが、女性では「出産・育児のため」が最も多くなっている。主な産業別にみると、女性では「教育、学習支援業」のみ「定年のため」が最も多くなっている。

表25 男女、前職の主な産業別 前職の離職理由割合（転職就業者及び離職非就業者）（平成29年）

（単位：％）

| 前職の産業別、 前職の離職理由 | 総 数 1) | 会社倒産・事業所閉鎖のため | 人員整理・勧奨退職のため | 事業不振や先行き不安のため | 定年のため | 雇用契約の満了のため | 収入が少なかったため | 労働条件が悪かったため | 結婚のため | 出産・育児のため | 介護・看護のため | 病気・高齢のため | 自分に向かない仕事だった | 一時的にいった仕事だから | 家族の転職・転勤又は事業所の移転のため | その他 |
|-----------------------|--------------|---------------|--------------|---------------|-------|------------|------------|-------------|-------|----------|----------|----------|--------------|--------------|---------------------|------|
| 総 数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数 1) | 100.0 | 4.5 | 3.3 | 2.5 | 11.8 | 4.4 | 3.7 | 7.2 | 4.3 | 5.0 | 2.6 | 8.0 | 3.9 | 3.5 | 1.2 | 16.7 |
| 建設業 | 100.0 | 3.8 | 9.7 | 4.5 | 16.6 | 6.2 | 4.1 | 6.2 | 3.1 | 2.1 | 1.7 | 12.1 | 6.2 | 3.4 | 0.7 | 19.7 |
| 製造業 | 100.0 | 7.1 | 6.4 | 3.5 | 22.0 | 5.3 | 5.7 | 7.7 | 4.0 | 5.7 | 2.9 | 6.0 | 3.5 | 1.7 | 0.7 | 17.2 |
| 運輸業、郵便業 | 100.0 | 2.2 | 3.0 | 2.4 | 18.3 | 4.1 | 9.9 | 8.6 | 2.2 | 2.2 | 0.2 | 16.4 | 2.4 | 9.1 | 0.6 | 18.3 |
| 卸売業、小売業 | 100.0 | 8.2 | 2.7 | 3.3 | 11.2 | 2.5 | 4.3 | 7.4 | 5.9 | 7.2 | 3.4 | 9.5 | 6.4 | 6.6 | 1.6 | 19.3 |
| 学術研究、 専門・技術サービス業 | 100.0 | 4.3 | 5.4 | 4.3 | 12.4 | 9.7 | 1.1 | 4.3 | 7.6 | 4.9 | — | 14.1 | 4.3 | 2.7 | — | 25.4 |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 100.0 | 7.1 | 2.1 | 2.8 | 4.7 | 1.1 | 3.9 | 11.4 | 3.7 | 5.0 | 2.8 | 11.9 | 5.0 | 6.9 | 0.7 | 29.7 |
| 生活関連サービス業、 娯楽業 | 100.0 | 7.7 | 1.2 | 6.9 | 4.5 | 2.4 | 6.5 | 7.7 | 6.1 | 8.5 | 2.0 | 10.9 | 6.1 | 4.5 | 2.4 | 22.3 |
| 教育、学習支援業 | 100.0 | 2.8 | 2.5 | 0.6 | 16.9 | 7.7 | 3.7 | 10.7 | 7.7 | 7.7 | 2.1 | 8.9 | 4.3 | 2.1 | 4.0 | 19.3 |
| 医療、福祉 | 100.0 | 1.7 | 3.2 | 1.8 | 8.0 | 5.9 | 3.2 | 11.3 | 9.8 | 8.4 | 4.8 | 7.3 | 3.3 | 1.5 | 2.9 | 26.5 |
| サービス業 (他に分類されないもの) | 100.0 | 6.7 | 4.2 | 1.4 | 8.7 | 8.1 | 7.0 | 12.9 | 0.6 | 4.2 | 3.9 | 12.1 | 5.6 | 5.9 | 2.0 | 15.4 |
| 男 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数 1) | 100.0 | 4.7 | 4.7 | 3.6 | 20.0 | 5.0 | 5.4 | 8.4 | 0.2 | 0.1 | 1.5 | 8.6 | 4.9 | 3.6 | 0.3 | 17.3 |
| 建設業 | 100.0 | 4.7 | 10.3 | 5.2 | 20.6 | 5.6 | 4.3 | 5.2 | 1.3 | — | 1.3 | 15.0 | 6.4 | 3.4 | — | 17.2 |
| 製造業 | 100.0 | 4.7 | 9.0 | 3.4 | 33.7 | 3.7 | 7.6 | 8.5 | — | — | 1.6 | 6.0 | 2.6 | 1.8 | 0.3 | 17.3 |
| 運輸業、郵便業 | 100.0 | 2.3 | 3.4 | 3.2 | 23.6 | 4.6 | 11.5 | 8.9 | 0.9 | — | — | 18.1 | 1.7 | 4.3 | 0.9 | 17.2 |
| 卸売業、小売業 | 100.0 | 8.1 | 3.2 | 6.3 | 19.1 | 3.2 | 7.0 | 7.2 | — | — | 1.4 | 8.1 | 7.7 | 8.6 | 0.5 | 18.0 |
| 学術研究、 専門・技術サービス業 | 100.0 | 3.0 | 6.1 | 8.1 | 18.2 | 10.1 | 2.0 | 5.1 | — | — | — | 18.2 | 8.1 | 3.0 | — | 17.2 |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 100.0 | 8.3 | 3.3 | 1.7 | 2.8 | — | 3.3 | 13.3 | 1.1 | — | 1.1 | 7.7 | 8.3 | 6.1 | — | 42.5 |
| 生活関連サービス業、 娯楽業 | 100.0 | 7.7 | 3.8 | 2.6 | 5.1 | 5.1 | 6.4 | 11.5 | — | — | — | 9.0 | 7.7 | 10.3 | 2.6 | 29.5 |
| 教育、学習支援業 | 100.0 | 1.7 | 5.1 | 1.7 | 22.0 | 3.4 | 7.6 | 16.1 | — | — | 2.5 | 7.6 | 9.3 | 1.7 | — | 21.2 |
| 医療、福祉 | 100.0 | 1.5 | — | 3.1 | 12.3 | 8.7 | 5.6 | 16.9 | — | — | — | 6.2 | 6.2 | 2.1 | — | 36.9 |
| サービス業 (他に分類されないもの) | 100.0 | 8.4 | 1.7 | 2.8 | 12.3 | 11.7 | 7.8 | 16.2 | — | — | 4.5 | 11.7 | 5.6 | 3.4 | 1.1 | 12.8 |
| 女 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数 1) | 100.0 | 4.3 | 2.1 | 1.5 | 5.6 | 3.9 | 2.4 | 6.2 | 7.4 | 8.7 | 3.5 | 7.5 | 3.2 | 3.3 | 1.9 | 16.2 |
| 建設業 | 100.0 | — | 7.0 | 1.8 | — | 8.8 | 3.5 | 10.5 | 10.5 | 10.5 | 3.5 | — | 5.3 | 5.3 | 3.5 | 29.8 |
| 製造業 | 100.0 | 10.2 | 2.9 | 3.8 | 6.7 | 7.3 | 3.3 | 6.7 | 9.2 | 13.2 | 4.6 | 6.3 | 4.8 | 1.9 | 1.3 | 17.1 |
| 運輸業、郵便業 | 100.0 | 1.7 | 1.7 | — | 3.4 | 3.4 | 5.2 | 7.8 | 6.0 | 8.6 | 0.9 | 12.1 | 4.3 | 22.4 | — | 21.6 |
| 卸売業、小売業 | 100.0 | 8.5 | 2.4 | 1.7 | 6.5 | 2.1 | 2.7 | 7.6 | 9.2 | 11.3 | 4.5 | 10.3 | 5.4 | 5.5 | 2.2 | 19.9 |
| 学術研究、 専門・技術サービス業 | 100.0 | 5.8 | 3.5 | — | 4.7 | 8.1 | — | 3.5 | 16.3 | 10.5 | — | 9.3 | — | 2.3 | — | 34.9 |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 100.0 | 6.2 | 1.4 | 3.4 | 5.9 | 1.7 | 4.5 | 10.7 | 5.1 | 7.6 | 3.7 | 14.3 | 3.4 | 7.3 | 1.1 | 23.3 |
| 生活関連サービス業、 娯楽業 | 100.0 | 8.2 | — | 8.8 | 4.1 | 1.2 | 7.1 | 5.9 | 8.8 | 12.4 | 2.9 | 12.4 | 5.3 | 1.8 | 2.4 | 18.2 |
| 教育、学習支援業 | 100.0 | 3.4 | 1.0 | — | 13.5 | 10.1 | 1.4 | 7.7 | 12.0 | 12.0 | 1.9 | 10.1 | 1.0 | 2.4 | 6.3 | 18.3 |
| 医療、福祉 | 100.0 | 1.8 | 4.2 | 1.4 | 6.7 | 5.0 | 2.6 | 9.8 | 12.8 | 11.0 | 6.2 | 7.7 | 2.4 | 1.4 | 3.8 | 23.2 |
| サービス業 (他に分類されないもの) | 100.0 | 4.5 | 6.7 | — | 5.1 | 4.5 | 6.2 | 9.6 | 1.1 | 8.4 | 3.9 | 12.4 | 5.6 | 8.4 | 2.8 | 18.0 |

「前職の離職理由」及び「前職の産業」の内訳は前職の離職時期が昭和58年以降の者である。ただし、総数は前職の離職時期が昭和57年以前の者を含む。

1) 「農業、林業」「漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」「複合サービス事業」「公務(他に分類されるものを除く)」「分類不能の産業」を含む

(4)雇用形態間の異動

前職と同じ雇用形態に転職する者が多い

過去5年間の転職者のうち、前職、現職ともに雇用者（役員を除く）だったもの13万4,100人について、雇用形態間の異動状況を見ると、前職が正規の職員・従業員だった者6万1,500人のうち、62.6%が現職でも正規の職員・従業員となっており、パートでは67.6%、アルバイトでは61.8%、労働者派遣事業所の派遣社員では50.0%が、前職と同じ雇用形態へ転職している。一方、契約社員、嘱託では正規の職員・従業員に転職する者が最も多くなっている。

表26 男女、前職の雇用形態別 転職者数及び現職の雇用形態割合
(平成24年10月以降に前職を辞めて現職に就いた者) (平成29年)

| 現職の雇用形態 | | 構 成 比 | | | | | | | | |
|-----------------|-------|--------------------|-------------------|------------|------|-----------|------------|------|------|------|
| 前職の雇用形態 | 実数 | 雇用者 (役員を 除く) | 正規の 職員・ 従業員 | 非正規の職員・従業員 | | | | | | |
| | | | | 総数 | パート | アルバイ ト | 派遣社員 1) | 契約社員 | 嘱託 | その他 |
| 総 数 | | | | | | | | | | |
| 雇用者(会社などの役員を除く) | 134.1 | 100.0 | 42.1 | 57.9 | 22.4 | 11.9 | 9.5 | 11.0 | 1.4 | 1.8 |
| 正規の職員・従業員 | 61.5 | 100.0 | 62.6 | 37.4 | 10.7 | 4.1 | 6.2 | 12.0 | 2.3 | 2.3 |
| 非正規の職員・従業員 | 72.7 | 100.0 | 24.6 | 75.4 | 32.3 | 18.4 | 12.2 | 10.0 | 0.7 | 1.5 |
| パート | 28.7 | 100.0 | 18.8 | 80.8 | 67.6 | 5.6 | 2.1 | 4.5 | 1.0 | — |
| アルバイト | 17.8 | 100.0 | 19.7 | 80.9 | 2.2 | 61.8 | 7.9 | 6.7 | — | 1.7 |
| 派遣社員 1) | 10.6 | 100.0 | 22.6 | 77.4 | 8.5 | 3.8 | 50.0 | 16.0 | — | — |
| 契約社員 | 10.8 | 100.0 | 37.0 | 63.0 | 17.6 | 3.7 | 15.7 | 25.9 | — | — |
| 嘱託 | 1.9 | 100.0 | 47.4 | 47.4 | 26.3 | — | — | 10.5 | 15.8 | — |
| その他 | 2.8 | 100.0 | 60.7 | 39.3 | 14.3 | — | — | — | — | 25.0 |
| 男 | | | | | | | | | | |
| 雇用者(会社などの役員を除く) | 59.7 | 100.0 | 56.4 | 43.4 | 6.9 | 10.4 | 6.4 | 15.6 | 1.8 | 2.3 |
| 正規の職員・従業員 | 36.9 | 100.0 | 66.4 | 33.6 | 4.6 | 3.8 | 5.1 | 15.4 | 2.2 | 2.4 |
| 非正規の職員・従業員 | 22.8 | 100.0 | 40.4 | 59.6 | 11.0 | 20.6 | 8.3 | 16.2 | 1.3 | 2.2 |
| パート | 4.0 | 100.0 | 50.0 | 50.0 | 45.0 | — | — | 5.0 | — | — |
| アルバイト | 7.3 | 100.0 | 21.9 | 78.1 | — | 61.6 | 9.6 | 6.8 | — | — |
| 派遣社員 1) | 2.5 | 100.0 | 56.0 | 44.0 | — | — | 24.0 | 20.0 | — | — |
| 契約社員 | 5.4 | 100.0 | 35.2 | 64.8 | 7.4 | 3.7 | 13.0 | 42.6 | — | — |
| 嘱託 | 1.5 | 100.0 | 53.3 | 46.7 | 20.0 | — | — | 13.3 | 20.0 | — |
| その他 | 2.1 | 100.0 | 71.4 | 23.8 | — | — | — | — | — | 23.8 |
| 女 | | | | | | | | | | |
| 雇用者(会社などの役員を除く) | 74.4 | 100.0 | 30.5 | 69.6 | 34.8 | 13.2 | 11.8 | 7.1 | 1.1 | 1.3 |
| 正規の職員・従業員 | 24.6 | 100.0 | 56.9 | 43.1 | 19.9 | 4.5 | 7.3 | 6.9 | 2.4 | 2.0 |
| 非正規の職員・従業員 | 49.9 | 100.0 | 17.4 | 82.6 | 42.3 | 17.4 | 14.0 | 7.2 | 0.6 | 1.0 |
| パート | 24.7 | 100.0 | 13.8 | 86.2 | 71.3 | 6.5 | 2.4 | 4.9 | 1.2 | — |
| アルバイト | 10.6 | 100.0 | 17.9 | 82.1 | 3.8 | 61.3 | 6.6 | 6.6 | — | 2.8 |
| 派遣社員 1) | 8.2 | 100.0 | 12.2 | 87.8 | 11.0 | 4.9 | 57.3 | 14.6 | — | — |
| 契約社員 | 5.4 | 100.0 | 38.9 | 61.1 | 27.8 | 3.7 | 18.5 | 11.1 | — | — |
| 嘱託 | 0.4 | 100.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | — | — | — | — | — |
| その他 | 0.7 | 100.0 | 14.3 | 85.7 | 57.1 | — | — | — | — | 28.6 |

1) 労働者派遣事業所の派遣社員

正規の職員・従業員から非正規の職員・従業員への異動割合は低下

正規の職員・従業員と非正規の職員・従業員について、雇用形態間の異動をみると、過去5年間の転職者13万4,100人のうち、前職が正規の職員・従業員の者は6万1,500人、前職が非正規の職員・従業員の者は7万2,700人となっている。前職が正規の職員・従業員で、非正規の職員・従業員に転職した者は37.4%で、前回調査の42.6%より5.2ポイント低下した。一方、前職が非正規の職員・従業員で、正規の職員・従業員に転職した者は24.6%で、前回調査の26.0%より1.3ポイント低下した。

男女別にみると、正規の職員・従業員から非正規の職員・従業員に転職した者は、男性は33.6%、女性は43.1%で、前回調査と比較すると、男性は0.9ポイント、女性は15.3ポイント低下した。非正規の職員・従業員から正規の職員・従業員に転職した者は、男性は40.4%、女性17.4%で、前回調査と比較すると、男性は4.0ポイント上昇、女性は3.1ポイント低下した。

全国結果をみると、正規の職員・従業員から非正規の職員・従業員への転職者の割合は、男女ともに低下し、総数では5.6ポイント低下した。非正規の職員・従業員から正規の職員・従業員への転職者の割合は男性では低下、女性では上昇しており、総数では0.9ポイント上昇している。

表27 男女別、過去5年間に「正規から非正規」及び「非正規から正規」への雇用形態間異動があった転職者割合(平成19～29年)

(単位：%，ポイント)

| | 前職が正規の職員・従業員 で、非正規の職員・従業員に 転職した者 | | | | | 前職が非正規の職員・従業員 で、正規の職員・従業員に 転職した者 | | | | |
|-----|--|------|------|-------------------|-------------------|--|------|------|-------------------|-------------------|
| | 平成19年 | 24年 | 29年 | 増減ポイント (19～24) | 増減ポイント (24～29) | 平成19年 | 24年 | 29年 | 増減ポイント (19～24) | 増減ポイント (24～29) |
| 総数 | 37.0 | 42.6 | 37.4 | 5.6 | △5.2 | 17.8 | 26.0 | 24.6 | 8.2 | △1.3 |
| 神戸市 | 38.3 | 43.1 | 36.3 | 4.8 | △6.8 | 24.3 | 24.5 | 24.7 | 0.2 | 0.1 |
| 兵庫県 | 36.6 | 40.3 | 34.8 | 3.7 | △5.6 | 26.5 | 24.2 | 25.1 | △2.3 | 0.9 |
| 男 | | | | | | | | | | |
| 神戸市 | 26.1 | 34.5 | 33.6 | 8.4 | △0.9 | 30.9 | 36.3 | 40.4 | 5.4 | 4.0 |
| 兵庫県 | 30.0 | 35.2 | 29.8 | 5.2 | △5.4 | 41.9 | 37.5 | 38.1 | △4.4 | 0.6 |
| 全国 | 28.4 | 33.2 | 27.2 | 4.8 | △6.0 | 40.5 | 38.0 | 37.9 | △2.5 | △0.1 |
| 女 | | | | | | | | | | |
| 神戸市 | 58.6 | 58.4 | 43.1 | △0.2 | △15.3 | 13.8 | 20.5 | 17.4 | 6.7 | △3.1 |
| 兵庫県 | 55.8 | 59.0 | 47.3 | 3.2 | △11.6 | 17.8 | 18.4 | 19.4 | 0.6 | 1.0 |
| 全国 | 52.8 | 53.6 | 47.7 | 0.8 | △5.9 | 20.4 | 18.0 | 19.6 | △2.4 | 1.6 |

5. 育児と就業

(1) 育児をしている者の就業状態

育児をしている女性の有業者数は、25歳以上の全ての年齢階級で増加

15歳以上人口について、就業状態、育児の有無別にみると、育児をしている者は12万5,900人で、うち有業者は9万6,400人、無業者は2万9,500人となっている。

育児をしている者について、男女別の有業率をみると、男性は97.9%、女性は59.5%となっている。年齢階級別にみると、男性では15～34歳及び45～49歳で100%と最も高くなっている。女性は「50歳以上」が100%と最も高く、次いで45～49歳が64.2%、40～44歳が63.7%となっている。

前回調査と比較すると、育児をしている女性の有業者数は、25歳以上の全ての年齢階級で増加している。

図19 年齢階級、男女別 育児をしている有業者数(平成24、29年)

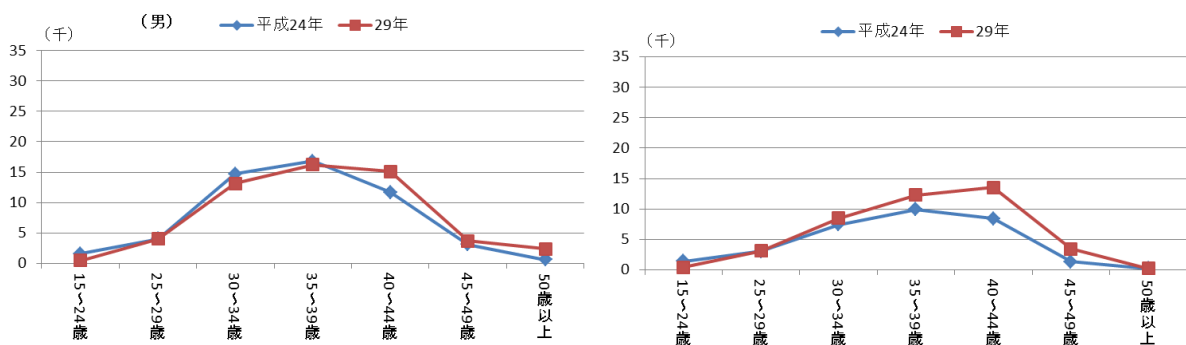


表28 男女、年齢階級別 育児をしている有業者数及び割合(平成29年)

| 育児をしている者 | (参考) 15歳以上人口 総数 | 総 数 | 実数 | | | | | | |
|------------|-----------------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | | 15～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 45～49歳 | 50歳以上 |
| 総 数 | | | 構成比 | | | | | | |
| 総数 | 1,349.5 | 125.9 | 1.4 | 9.8 | 28.5 | 37.3 | 36.8 | 9.0 | 3.1 |
| 有業者 | 760.2 | 96.4 | 0.9 | 7.1 | 21.6 | 28.5 | 28.6 | 7.1 | 2.6 |
| 無業者 | 589.4 | 29.5 | 0.5 | 2.7 | 6.8 | 8.8 | 8.2 | 1.9 | 0.5 |
| 男 | | | 構成比 | | | | | | |
| 総数 | 632.8 | 56.2 | 0.5 | 4.0 | 13.1 | 16.5 | 15.6 | 3.7 | 2.9 |
| 有業者 | 423.0 | 55.0 | 0.5 | 4.0 | 13.1 | 16.2 | 15.1 | 3.7 | 2.4 |
| 無業者 | 209.8 | 1.3 | — | — | — | 0.3 | 0.5 | — | 0.5 |
| 女 | | | 構成比 | | | | | | |
| 総数 | 716.8 | 69.6 | 0.9 | 5.8 | 15.4 | 20.8 | 21.2 | 5.3 | 0.2 |
| 有業者 | 337.2 | 41.4 | 0.4 | 3.1 | 8.5 | 12.3 | 13.5 | 3.4 | 0.2 |
| 無業者 | 379.6 | 28.2 | 0.5 | 2.7 | 6.8 | 8.5 | 7.7 | 1.9 | — |
| 総 数 | | | 構成比 | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 有業者 | 56.3 | 76.6 | 64.3 | 72.4 | 75.8 | 76.4 | 77.7 | 78.9 | 83.9 |
| 無業者 | 43.7 | 23.4 | 35.7 | 27.6 | 23.9 | 23.6 | 22.3 | 21.1 | 16.1 |
| 男 | | | 構成比 | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 有業者 | 66.8 | 97.9 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 98.2 | 96.8 | 100.0 | 82.8 |
| 無業者 | 33.2 | 2.3 | — | — | — | 1.8 | 3.2 | — | 17.2 |
| 女 | | | 構成比 | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 有業者 | 47.0 | 59.5 | 44.4 | 53.4 | 55.2 | 59.1 | 63.7 | 64.2 | 100.0 |
| 無業者 | 53.0 | 40.5 | 55.6 | 46.6 | 44.2 | 40.9 | 36.3 | 35.8 | — |

(2) 出産・育児を理由に離職した者

「出産・育児のため」に前職を離職した者は 3,800 人減少

「出産・育児のため」に前職を離職した者（離職時期が昭和 63 年以後の者）についてみると、4 万 1,400 人となっている。就業状態別にみると、調査時点で有業者は 2 万 400 人、無業者は 2 万 1,000 人となっている。

前回調査と比較すると、「出産・育児のため」に前職を離職した者は 3,800 人減少、うち調査時点で有業者は 5,200 人増加、無業者は 9,000 人減少となっている。

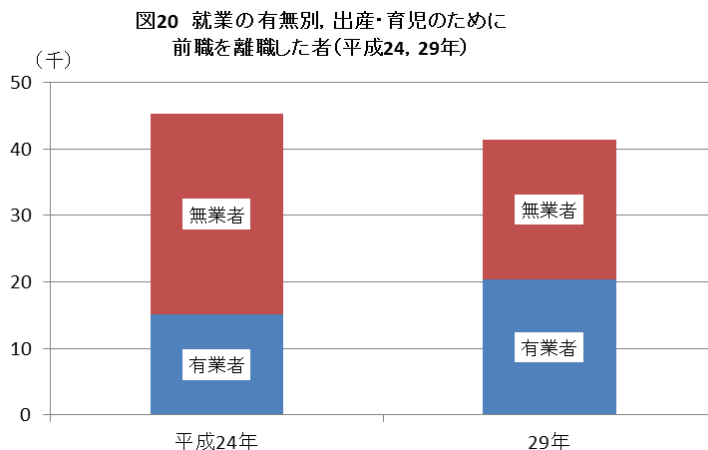


表29 男女、就業状態別出産・育児のために前職を離職した者及び割合(平成29年)

(単位：千人，%)

| 就業状態 | 実数 | | | 構成比 | | |
|------|-------|------|-------|-------|-------|--------|
| | 平成24年 | 29年 | 増減数 | 平成24年 | 29年 | 増減率 |
| 総数 | 45.2 | 41.4 | △ 3.8 | 100.0 | 100.0 | — |
| 有業者 | 15.2 | 20.4 | 5.2 | 33.6 | 49.3 | 15.6 |
| 無業者 | 30.0 | 21.0 | △ 9.0 | 66.4 | 50.7 | △ 15.6 |
| 男 | 0.4 | 0.3 | △ 0.1 | 100.0 | 100.0 | — |
| 有業者 | — | — | — | — | — | — |
| 無業者 | 0.4 | 0.3 | △ 0.1 | 100.0 | 100.0 | — |
| 女 | 44.8 | 41.1 | △ 3.7 | 100.0 | 100.0 | — |
| 有業者 | 15.2 | 20.4 | 5.2 | 33.9 | 49.6 | 15.7 |
| 無業者 | 29.6 | 20.7 | △ 8.9 | 66.1 | 50.4 | △ 15.7 |

(3) 1日あたりの家事・育児時間

「正規の職員・従業員」のうち、男性は「1時間未満」、女性は「4～6時間未満」の割合が最も高い

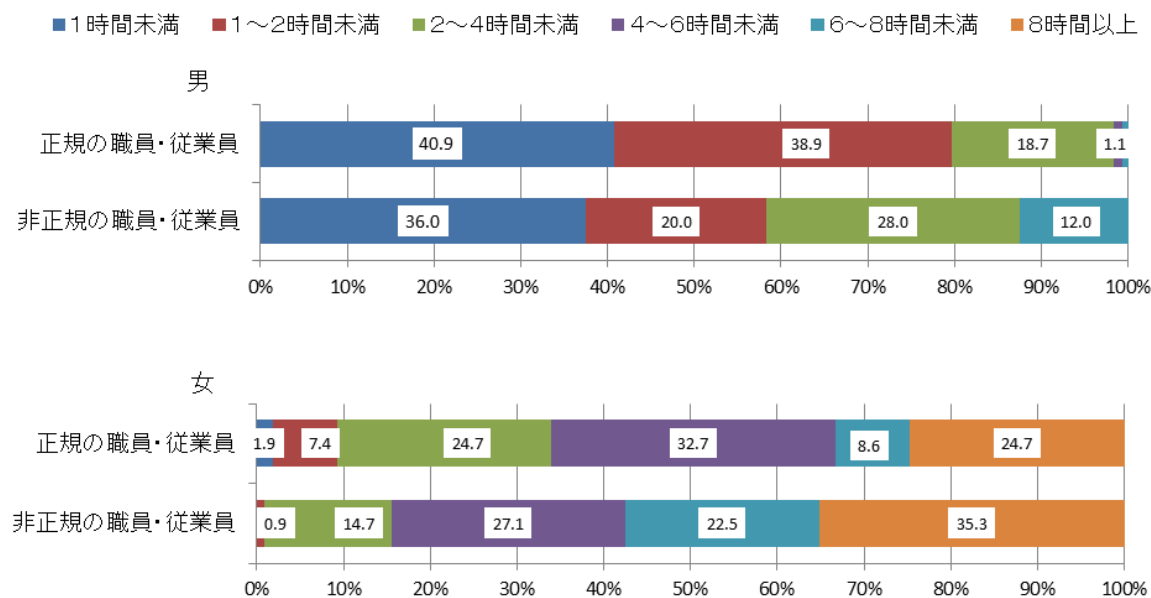
育児をしている雇用者について、1日あたりの家事・育児時間別の割合を男女、雇用形態別にみると、男性の正規の職員・従業員では「1時間未満」が 40.9%と最も高く、非正規の職員・従業員でも「1時間未満」が 36.0%と最も高い。1日あたりの家事・育児時間が2時間以上であるのは、正規の職員・従業員で約2割、非正規の職員・従業員で約4割となっており、「8時間以上」は存在しない。一方、女性の正規の職員・従業員では「4～6時間未満」が 32.7%と最も高く、非正規の職員・従業員は「8時間以上」が 35.3%と最も高くなっている。1日あたりの家事・育児時間が6時間以上の割合は、非正規の職員・従業員が正規の職員・従業員を上回っている。

表30 男女、雇用形態、1日あたりの育児時間別、育児をしている雇用者(平成29年)

(単位:千人,%)

| 育児の有無 | 総数 | 1時間未満 | 1～2時間未満 | 2～4時間未満 | 4～6時間未満 | 6～8時間未満 | 8時間以上 |
|------------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 実数 | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | |
| 総数 | 91.2 | 20.8 | 21.8 | 17.4 | 12.2 | 7.1 | 11.9 |
| 正規の職員・従業員 | 63.2 | 19.4 | 19.5 | 12.8 | 5.8 | 1.7 | 4.0 |
| 非正規の職員・従業員 | 24.3 | 0.9 | 0.7 | 4.0 | 5.9 | 5.2 | 7.7 |
| 男 | | | | | | | |
| 総数 | 52.4 | 20.5 | 20.2 | 10.2 | 0.7 | 0.8 | — |
| 正規の職員・従業員 | 47.0 | 19.2 | 18.3 | 8.8 | 0.5 | 0.3 | — |
| 非正規の職員・従業員 | 2.5 | 0.9 | 0.5 | 0.7 | — | 0.3 | — |
| 女 | | | | | | | |
| 総数 | 38.8 | 0.3 | 1.6 | 7.2 | 11.4 | 6.3 | 11.9 |
| 正規の職員・従業員 | 16.2 | 0.3 | 1.2 | 4.0 | 5.3 | 1.4 | 4.0 |
| 非正規の職員・従業員 | 21.8 | — | 0.2 | 3.2 | 5.9 | 4.9 | 7.7 |
| 構成比 | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 22.8 | 23.9 | 19.1 | 13.4 | 7.8 | 13.0 |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 | 30.7 | 30.9 | 20.3 | 9.2 | 2.7 | 6.3 |
| 非正規の職員・従業員 | 100.0 | 3.7 | 2.9 | 16.5 | 24.3 | 21.4 | 31.7 |
| 男 | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 39.1 | 38.5 | 19.5 | 1.3 | 1.5 | — |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 | 40.9 | 38.9 | 18.7 | 1.1 | 0.6 | — |
| 非正規の職員・従業員 | 100.0 | 36.0 | 20.0 | 28.0 | — | 12.0 | — |
| 女 | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 0.8 | 4.1 | 18.6 | 29.4 | 16.2 | 30.7 |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 | 1.9 | 7.4 | 24.7 | 32.7 | 8.6 | 24.7 |
| 非正規の職員・従業員 | 100.0 | — | 0.9 | 14.7 | 27.1 | 22.5 | 35.3 |

図21 男女、雇用形態、1日あたりの育児時間別 育児をしている雇用者の構成比(平成29年)



6. 介護と就業

(1) 介護をしている者の就業状態

介護をしている女性の有業者数は「40～44歳」、「50～54歳」を除く全ての年齢階級で増加

15歳以上人口について、就業状態、介護の有無別にみると、介護をしている者は8万4,400人で、うち有業者は4万4,000人、無業者は4万400人となっている。介護をしている者について、男女別の有業率をみると、男性は62.4%、女性は46.4%となっている。年齢階級別にみると、男性は「45～49歳」が100%と最も高く、次いで「55～59歳」が94.9%、「40～44歳」が92.3%となっている。一方、女性は「45～49歳」が78.7%と最も高く、次いで「30～39歳」が78.4%、「50～54歳」が61.4%となっている。

前回調査と比べると、介護をしている女性の有業者数は、「40～44歳」、「50～54歳」を除く全ての年齢階級で増加している。

図22 年齢階級、男女別 介護をしている有業者数(平成24, 29年)

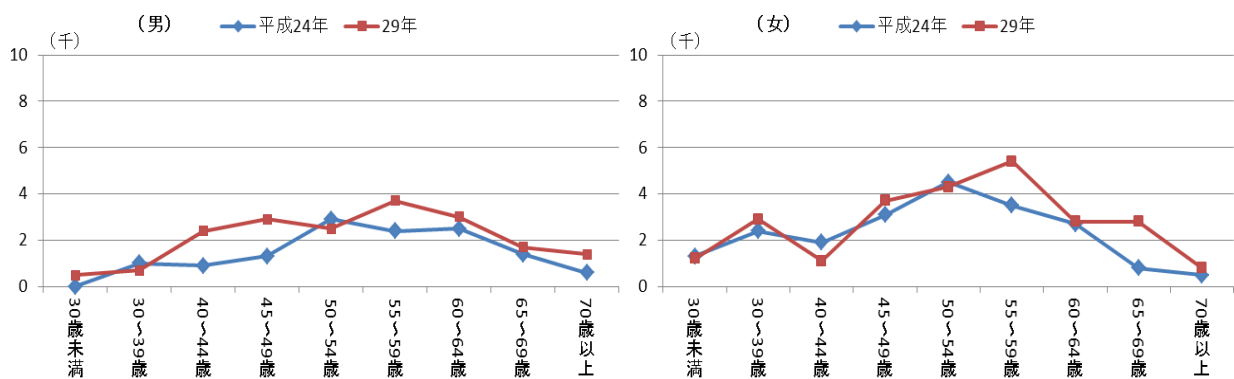


表31 男女、年齢階級別 介護をしている有業者数及び割合(平成29年)

| | | (単位: 千人, %) | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|-------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--|
| 介護をしている者 | (参考) | 総数 | 実数 | | | | | | | | | |
| | 15歳以上人口総数 | | 30歳未満 | 30～39歳 | 40～44歳 | 45～49歳 | 50～54歳 | 55～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70歳以上 | |
| 総数 | | | 実数 | | | | | | | | | |
| 総数 | 1,349.5 | 84.4 | 3.2 | 4.7 | 4.7 | 7.6 | 10.5 | 13.0 | 13.3 | 11.6 | 15.7 | |
| 有業者 | 760.2 | 44.0 | 1.7 | 3.6 | 3.5 | 6.6 | 6.8 | 9.1 | 5.8 | 4.5 | 2.2 | |
| 無業者 | 589.4 | 40.4 | 1.4 | 1.1 | 1.2 | 1.0 | 3.7 | 3.9 | 7.5 | 7.1 | 13.5 | |
| 男 | | | 実数 | | | | | | | | | |
| 総数 | 632.8 | 30.3 | 1.1 | 1.0 | 2.6 | 2.9 | 3.5 | 3.9 | 5.7 | 3.8 | 5.7 | |
| 有業者 | 423.0 | 18.9 | 0.5 | 0.7 | 2.4 | 2.9 | 2.5 | 3.7 | 3.0 | 1.7 | 1.4 | |
| 無業者 | 209.8 | 11.3 | 0.6 | 0.3 | 0.2 | — | 1.0 | 0.2 | 2.7 | 2.1 | 4.2 | |
| 女 | | | 実数 | | | | | | | | | |
| 総数 | 716.8 | 54.1 | 2.1 | 3.7 | 2.1 | 4.7 | 7.0 | 9.1 | 7.6 | 7.8 | 10.1 | |
| 有業者 | 337.2 | 25.1 | 1.2 | 2.9 | 1.1 | 3.7 | 4.3 | 5.4 | 2.8 | 2.8 | 0.8 | |
| 無業者 | 379.6 | 29.1 | 0.9 | 0.8 | 1.0 | 1.0 | 2.8 | 3.7 | 4.8 | 5.0 | 9.3 | |
| 構成比 | | | 構成比 | | | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| 有業者 | 56.3 | 52.1 | 53.1 | 76.6 | 74.5 | 86.8 | 64.8 | 70.0 | 43.6 | 38.8 | 14.0 | |
| 無業者 | 43.7 | 47.9 | 43.8 | 23.4 | 25.5 | 13.2 | 35.2 | 30.0 | 56.4 | 61.2 | 86.0 | |
| 男 | | | 構成比 | | | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| 有業者 | 66.8 | 62.4 | 45.5 | 70.0 | 92.3 | 100.0 | 71.4 | 94.9 | 52.6 | 44.7 | 24.6 | |
| 無業者 | 33.2 | 37.3 | 54.5 | 30.0 | 7.7 | — | 28.6 | 5.1 | 47.4 | 55.3 | 73.7 | |
| 女 | | | 構成比 | | | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| 有業者 | 47.0 | 46.4 | 57.1 | 78.4 | 52.4 | 78.7 | 61.4 | 59.3 | 36.8 | 35.9 | 7.9 | |
| 無業者 | 53.0 | 53.8 | 42.9 | 21.6 | 47.6 | 21.3 | 40.0 | 40.7 | 63.2 | 64.1 | 92.1 | |

(2) 介護・看護を理由に離職した者

「介護・看護のため」に前職を離職した者は 2,300 人増加

「介護・看護のため」に前職を離職した者（離職時期が昭和 63 年以後の者）は 2 万 1,900 人で、うち男性は 5,400 人、女性は 1 万 6,600 人となっており、女性が 4 分の 3 以上を占めている。調査時点の就業状態別にみると、有業者は 7,400 人、無業者は 1 万 4,500 人となっている。

前回調査と比較すると、「介護・看護のため」に前職を離職した者の総数は 2,300 人増加、うち調査時点で有業者は 2,200 人増加、無業者は 100 人増加となっている。

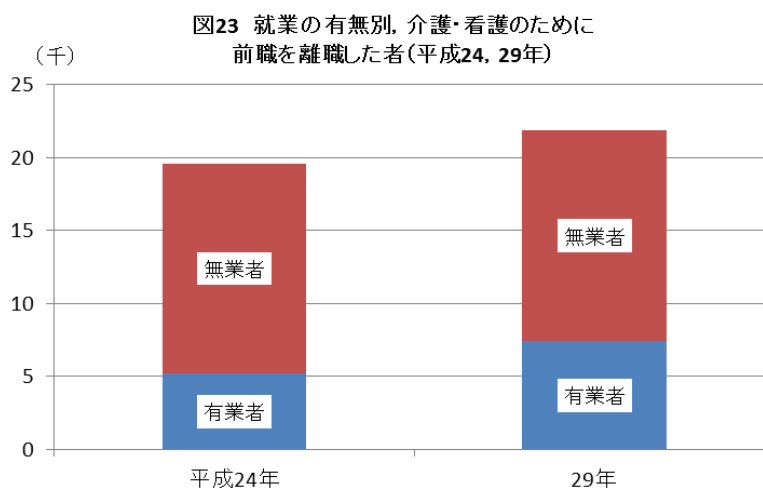


表32 男女、就業状態別 介護・看護のために前職を離職した者(平成29年)

(単位：千人，%，ポイント)

| 年齢階級 | 実数 | | | 構成比 | | |
|------|-------|------|-------|-------|-------|--------|
| | 平成24年 | 29年 | 増減数 | 平成24年 | 29年 | 増減ポイント |
| 総数 | 19.6 | 21.9 | 2.3 | 100.0 | 100.0 | — |
| 有業者 | 5.2 | 7.4 | 2.2 | 26.5 | 33.8 | 7.3 |
| 無業者 | 14.4 | 14.5 | 0.1 | 73.5 | 66.2 | △ 7.3 |
| 男 | 4.0 | 5.4 | 1.4 | 20.4 | 24.7 | 4.2 |
| 有業者 | 2.0 | 2.0 | — | 10.2 | 9.1 | △ 1.1 |
| 無業者 | 2.0 | 3.4 | 1.4 | 10.2 | 15.5 | 5.3 |
| 女 | 17.3 | 16.6 | △ 0.7 | 88.3 | 75.8 | △ 12.5 |
| 有業者 | 4.9 | 5.5 | 0.6 | 25.0 | 25.1 | 0.1 |
| 無業者 | 12.4 | 11.1 | △ 1.3 | 63.3 | 50.7 | △ 12.6 |

(3) 介護日数

「正規の職員・従業員」のうち、男性は「月に3日以内」、女性は「週に6日以上」の割合が最も高い

介護をしている雇用者について、介護日数別の割合を男女、雇用形態別にみると、正規の職員・従業員のうち、男性は「月に3日以内」が 38.7%と最も高く、次いで「週に1回」が 21.6%、「週に2日」が 19.8%となっている。一方、女性は「週に6日以上」が 34.1%と最も高く、次いで「週に1日」が 28.2%、「月に3日以内」が 27.1%となっている。

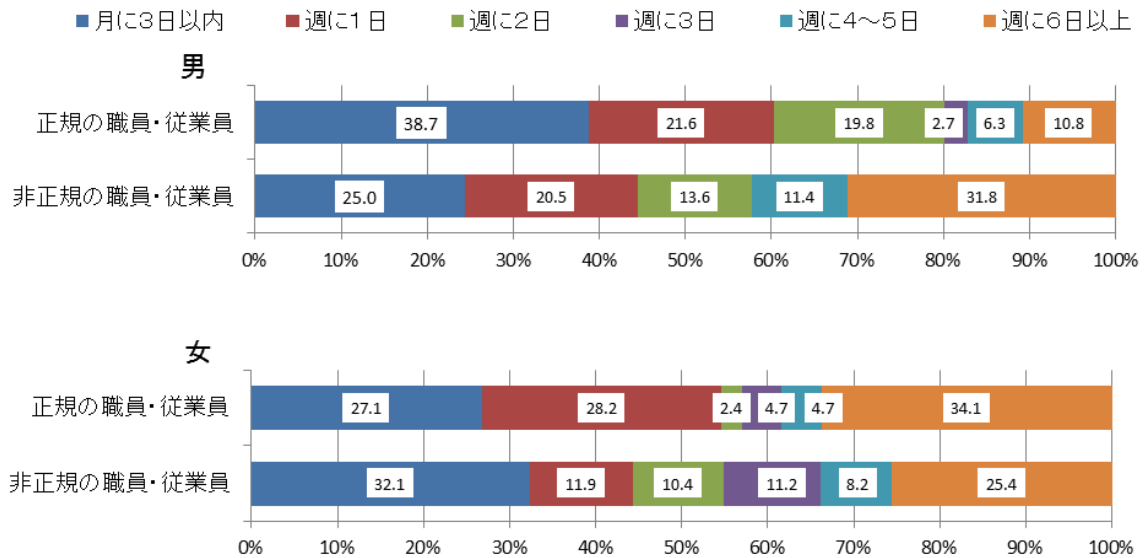
また、非正規の職員・従業員についてみると、男性は「週に6日以上」が 31.8%と最も高く、次いで「月に3日以内」が 25.0%、「週に1日」が 20.5%となっている。一方、女性は「月に3日以内」が 32.1%と最も高く、次いで「週に6日以上」が 25.4%、「週に1日」が 11.9%となっている。

表33 男女、雇用形態、1週間あたりの介護時間別、介護をしている雇用者(平成29年)

(千人, %)

| 介護の有無・頻度 | 総数 | 月に3日以内 | 週に1日 | 週に2日 | 週に3日 | 週に4～5日 | 週に6日以上 |
|------------|-------|--------|------|------|------|--------|--------|
| 実数 | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | |
| 総数 | 40.4 | 12.6 | 8.5 | 4.5 | 2.1 | 2.6 | 10.1 |
| 正規の職員・従業員 | 19.6 | 6.6 | 4.8 | 2.3 | 0.6 | 1.0 | 4.2 |
| 非正規の職員・従業員 | 17.8 | 5.4 | 2.5 | 2.0 | 1.5 | 1.6 | 4.9 |
| 男 | | | | | | | |
| 総数 | 17.0 | 5.6 | 3.9 | 2.9 | 0.3 | 1.1 | 3.3 |
| 正規の職員・従業員 | 11.1 | 4.3 | 2.4 | 2.2 | 0.3 | 0.7 | 1.2 |
| 非正規の職員・従業員 | 4.4 | 1.1 | 0.9 | 0.6 | — | 0.5 | 1.4 |
| 女 | | | | | | | |
| 総数 | 23.3 | 7.0 | 4.7 | 1.6 | 1.8 | 1.5 | 6.8 |
| 正規の職員・従業員 | 8.5 | 2.3 | 2.4 | 0.2 | 0.4 | 0.4 | 2.9 |
| 非正規の職員・従業員 | 13.4 | 4.3 | 1.6 | 1.4 | 1.5 | 1.1 | 3.4 |
| 構成比 | | | | | | | |
| 総数 | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 31.2 | 21.0 | 11.1 | 5.2 | 6.4 | 25.0 |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 | 33.7 | 24.5 | 11.7 | 3.1 | 5.1 | 21.4 |
| 非正規の職員・従業員 | 100.0 | 30.3 | 14.0 | 11.2 | 8.4 | 9.0 | 27.5 |
| 男 | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 32.9 | 22.9 | 17.1 | 1.8 | 6.5 | 19.4 |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 | 38.7 | 21.6 | 19.8 | 2.7 | 6.3 | 10.8 |
| 非正規の職員・従業員 | 100.0 | 25.0 | 20.5 | 13.6 | — | 11.4 | 31.8 |
| 女 | | | | | | | |
| 総数 | 100.0 | 30.0 | 20.2 | 6.9 | 7.7 | 6.4 | 29.2 |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 | 27.1 | 28.2 | 2.4 | 4.7 | 4.7 | 34.1 |
| 非正規の職員・従業員 | 100.0 | 32.1 | 11.9 | 10.4 | 11.2 | 8.2 | 25.4 |

図24 男女、雇用形態、1日あたりの介護時間別 介護をしている雇用者の構成比(平成29年)



7. 就業調整

(1) 所得別

就業調整をしている者の8割強が所得50～149万円

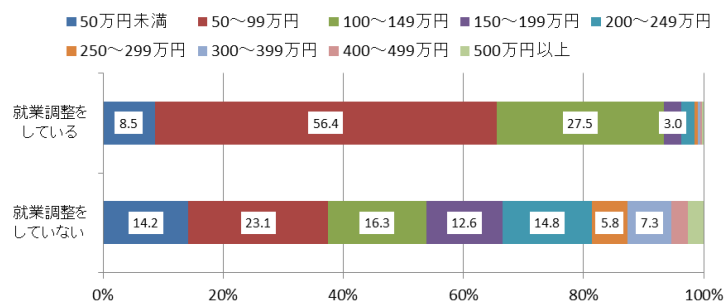
「非正規の職員・従業員」のうち就業調整をしている者は7万3,900人で、「非正規の職員・従業員」に占める割合は28.2%となっている。男女別にみると、男性は1万2,200人（男性の「非正規の職員・従業員」に占める割合14.8%）、女性は6万1,700人（女性の「非正規の職員・従業員」に占める割合34.4%）となっている。

就業調整をしている者について、所得階級別の割合をみると、「50～99万円」が56.4%と最も多く、次いで「100～149万円」が27.5%と、50～149万円が8割を超えている。

表34 男女、所得階級、就業調整の有無別 非正規の職員・従業員数及び割合
(平成29年)

| 所得階級別, 就業調整の有無 | 実数 | | | 構成比 | | |
|-------------------|-------|---------------|----------------|-------|---------------|----------------|
| | 総数 | 就業調整を している | 就業調整を していない | 総数 | 就業調整を している | 就業調整を していない |
| 総 数 | | | | | | |
| 総数 | 261.9 | 73.9 | 181.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 50万円未満 | 32.8 | 6.3 | 25.7 | 12.5 | 8.5 | 14.2 |
| 50～99万円 | 84.6 | 41.7 | 41.9 | 32.3 | 56.4 | 23.1 |
| 100～149万円 | 50.5 | 20.3 | 29.6 | 19.3 | 27.5 | 16.3 |
| 150～199万円 | 26.3 | 2.2 | 22.8 | 10.0 | 3.0 | 12.6 |
| 200～249万円 | 29.3 | 1.6 | 26.9 | 11.2 | 2.2 | 14.8 |
| 250～299万円 | 11.2 | 0.4 | 10.6 | 4.3 | 0.5 | 5.8 |
| 300～399万円 | 13.9 | 0.3 | 13.3 | 5.3 | 0.4 | 7.3 |
| 400～499万円 | 5.4 | 0.2 | 5.0 | 2.1 | 0.3 | 2.8 |
| 500万円以上 | 5.2 | 0.2 | 4.7 | 2.0 | 0.3 | 2.6 |
| 男 | | | | | | |
| 総数 | 82.7 | 12.2 | 66.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 50万円未満 | 9.1 | 1.6 | 7.2 | 11.0 | 13.1 | 10.8 |
| 50～99万円 | 16.3 | 4.4 | 11.4 | 19.7 | 36.1 | 17.2 |
| 100～149万円 | 11.8 | 2.6 | 8.9 | 14.3 | 21.3 | 13.4 |
| 150～199万円 | 10.5 | 1.5 | 8.0 | 12.7 | 12.3 | 12.0 |
| 200～249万円 | 13.5 | 0.9 | 12.1 | 16.3 | 7.4 | 18.2 |
| 250～299万円 | 4.7 | 0.2 | 4.5 | 5.7 | 1.6 | 6.8 |
| 300～399万円 | 7.5 | 0.3 | 7.0 | 9.1 | 2.5 | 10.5 |
| 400～499万円 | 3.4 | 0.2 | 3.0 | 4.1 | 1.6 | 4.5 |
| 500万円以上 | 4.7 | 0.2 | 4.2 | 5.7 | 1.6 | 6.3 |
| 女 | | | | | | |
| 総数 | 179.2 | 61.7 | 115.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 50万円未満 | 23.8 | 4.7 | 18.5 | 13.3 | 7.6 | 16.1 |
| 50～99万円 | 68.3 | 37.2 | 30.5 | 38.1 | 60.3 | 26.5 |
| 100～149万円 | 38.7 | 17.7 | 20.8 | 21.6 | 28.7 | 18.1 |
| 150～199万円 | 15.7 | 0.7 | 14.8 | 8.8 | 1.1 | 12.9 |
| 200～249万円 | 15.8 | 0.7 | 14.8 | 8.8 | 1.1 | 12.9 |
| 250～299万円 | 6.5 | 0.2 | 6.1 | 3.6 | 0.3 | 5.3 |
| 300～399万円 | 6.3 | — | 6.3 | 3.5 | — | 5.5 |
| 400～499万円 | 2.0 | — | 2.0 | 1.1 | — | 1.7 |
| 500万円以上 | 0.5 | — | 0.5 | 0.3 | — | 0.4 |

図25 所得階級、就業調整の有無別 非正規の職員・従業員の割合(平成29年)



(2)年齢(5歳階級)別

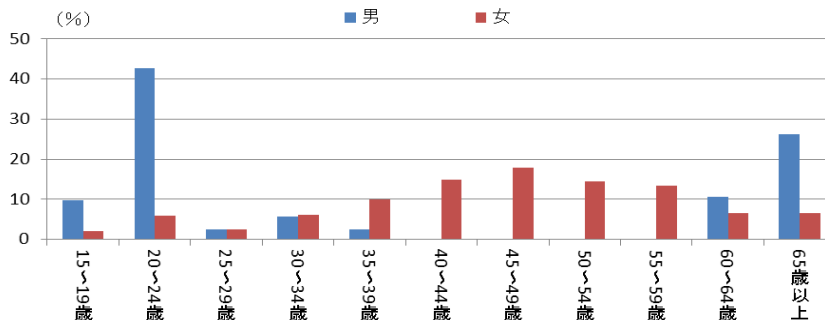
男性は「20～24歳」、女性は「45～49歳」の割合が最も高い

「非正規の職員・従業員」に占める就業調整をしている者の割合について、男女、年齢階級別にみると、男性は「20～24歳」が42.6%と最も高く、次いで「65歳以上」が26.2%、「60～64歳」が10.7%となっている。女性は「45～49歳」が17.8%と最も高く、次いで「40～44歳」が14.9%、「50～54歳」が14.4%となっている。

表35 男女、所得階級、就業調整の有無別 非正規の職員・従業員数及び割合 (平成29年)

| 所得階級別, 就業調整の有無 | 実数 | | | 構成比 | | |
|-------------------|-------|---------------|----------------|-------|---------------|----------------|
| | 総数 | 就業調整を している | 就業調整を していない | 総数 | 就業調整を している | 就業調整を していない |
| 総数 | 261.9 | 73.9 | 181.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 15～19歳 | 8.9 | 2.5 | 6.1 | 3.4 | 3.4 | 3.4 |
| 20～24歳 | 25.2 | 8.9 | 15.4 | 9.6 | 12.0 | 8.5 |
| 25～29歳 | 15.4 | 1.8 | 13.0 | 5.9 | 2.4 | 7.2 |
| 30～34歳 | 14.7 | 4.4 | 9.9 | 5.6 | 6.0 | 5.5 |
| 35～39歳 | 22.5 | 6.4 | 15.9 | 8.6 | 8.7 | 8.8 |
| 40～44歳 | 25.7 | 9.2 | 15.9 | 9.8 | 12.4 | 8.8 |
| 45～49歳 | 33.3 | 11.0 | 21.7 | 12.7 | 14.9 | 12.0 |
| 50～54歳 | 27.0 | 8.9 | 17.6 | 10.3 | 12.0 | 9.7 |
| 55～59歳 | 22.4 | 8.3 | 13.9 | 8.6 | 11.2 | 7.7 |
| 60～64歳 | 29.5 | 5.3 | 23.0 | 11.3 | 7.2 | 12.7 |
| 65歳以上 | 37.2 | 7.2 | 29.1 | 14.2 | 9.7 | 16.0 |
| 男 | | | | | | |
| 総数 | 82.7 | 12.2 | 66.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 15～19歳 | 5.7 | 1.2 | 4.2 | 6.9 | 9.8 | 6.3 |
| 20～24歳 | 10.8 | 5.2 | 5.2 | 13.1 | 42.6 | 7.8 |
| 25～29歳 | 6.3 | 0.3 | 5.7 | 7.6 | 2.5 | 8.6 |
| 30～34歳 | 4.8 | 0.7 | 3.8 | 5.8 | 5.7 | 5.7 |
| 35～39歳 | 3.0 | 0.3 | 2.7 | 3.6 | 2.5 | 4.1 |
| 40～44歳 | 3.3 | — | 3.0 | 4.0 | — | 4.5 |
| 45～49歳 | 5.0 | — | 4.7 | 6.0 | — | 7.1 |
| 50～54歳 | 3.6 | — | 3.4 | 4.4 | — | 5.1 |
| 55～59歳 | 5.2 | — | 5.0 | 6.3 | — | 7.5 |
| 60～64歳 | 13.8 | 1.3 | 11.2 | 16.7 | 10.7 | 16.9 |
| 65歳以上 | 21.4 | 3.2 | 17.8 | 25.9 | 26.2 | 26.8 |
| 女 | | | | | | |
| 総数 | 179.2 | 61.7 | 115.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 15～19歳 | 3.2 | 1.3 | 1.9 | 1.8 | 2.1 | 1.7 |
| 20～24歳 | 14.3 | 3.7 | 10.2 | 8.0 | 6.0 | 8.9 |
| 25～29歳 | 9.2 | 1.5 | 7.3 | 5.1 | 2.4 | 6.3 |
| 30～34歳 | 10.0 | 3.8 | 6.2 | 5.6 | 6.2 | 5.4 |
| 35～39歳 | 19.5 | 6.1 | 13.2 | 10.9 | 9.9 | 11.5 |
| 40～44歳 | 22.4 | 9.2 | 12.9 | 12.5 | 14.9 | 11.2 |
| 45～49歳 | 28.3 | 11.0 | 17.0 | 15.8 | 17.8 | 14.8 |
| 50～54歳 | 23.4 | 8.9 | 14.3 | 13.1 | 14.4 | 12.4 |
| 55～59歳 | 17.2 | 8.3 | 8.9 | 9.6 | 13.5 | 7.7 |
| 60～64歳 | 15.8 | 4.0 | 11.8 | 8.8 | 6.5 | 10.3 |
| 65歳以上 | 15.8 | 4.0 | 11.3 | 8.8 | 6.5 | 9.8 |

図26 男女、年齢階級別 非正規の職員・従業員に占める
就業調整をしている者の割合(平成29年)



8. 起業

起業者の8割が男性, 2割が女性

「自営業主」及び「会社などの役員」のうち起業者についてみると、4万8,600人で、うち男性が3万8,900人（起業者に占める割合80.0%）、女性が9,700人（起業者に占める割合20.0%）となっている。

男女別構成比を全国値と比較すると、神戸市の方が起業者に占める女性の割合が0.7ポイント高くなっている。

前回調査と構成比を比較すると、男性の起業者は2.9ポイント低下したが、女性の起業者の割合は2.7ポイント上昇している。

表36 男女別 起業者数及び構成比 神戸市・全国(平成24, 29年)

(単位:千人, %)

| 起業者 | 実数 | | | | 構成比 | | | |
|------------|-------------|--------------|-----------------|------------------|--------------|--------------|-----------------|------------------|
| | 起業者 総数 | 自営業者の 起業者 | 会社などの役員 の起業者 | (参考) 全国 起業者総数 | 起業者 総数 | 自営業者の 起業者 | 会社などの役員 の起業者 | (参考) 全国 起業者総数 |
| 総数 | | | | | | | | |
| 平成24年 | 57.3 | 42.0 | 15.3 | 5,138.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 29年 | 48.6 | 33.5 | 15.1 | 4,770.9 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 増減 (29-24) | △ 8.7 | △ 8.5 | △ 0.2 | △ 367.3 | — | — | — | — |
| 男 | | | | | | | | |
| 平成24年 | 47.5 | 34.2 | 13.3 | 4,220.7 | 82.9 | 81.4 | 86.9 | 82.1 |
| 29年 | 38.9 | 26.2 | 12.7 | 3,848.5 | 80.0 | 78.2 | 84.1 | 80.7 |
| 増減 (29-24) | △ 8.6 | △ 8.0 | △ 0.6 | △ 372.2 | △ 2.9 | △ 3.2 | △ 2.8 | △ 1.5 |
| 女 | | | | | | | | |
| 平成24年 | 9.9 | 7.8 | 2.1 | 917.5 | 17.3 | 18.6 | 13.7 | 17.9 |
| 29年 | 9.7 | 7.3 | 2.4 | 922.4 | 20.0 | 21.8 | 15.9 | 19.3 |
| 増減 (29-24) | △ 0.2 | △ 0.5 | 0.3 | 4.9 | 2.7 | 3.2 | 2.2 | 1.5 |